東京都多摩地区教育推進委員会　第 25 次計画（通算第 46 年次）　報告書

これからの時代に求められる学校教育の創造

−持続可能な社会の実現を目指した教育活動の改善を通して−

令和２年２月
東京都多摩教育事務所

目　次

基本的な考え方

Ⅰ　研究の背景…… 1
Ⅱ　研究主題…… 3
Ⅲ　研究の視点…… 3

研究の内容

◆　「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成を目指した学校教育を実現するための三つの視点
【視点１】「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の明確化…… 4
【視点２】教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実…… 5
【視点３】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の充実…… 6
◆　研究概要図…… 8
◆　「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための各教科等の主な学習活動の一覧の読み方……10
◆　「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成する単元（題材）の指導計画の読み方……12
◆　実践事例
【実践事例１】小学校　総合的な学習の時間の取組……14
【実践事例２】中学校　総合的な学習の時間の取組……20
【実践事例３】小学校　算数を通した取組……26
【実践事例４】小学校　プログラミング教育を生かした取組……32

研究のまとめ

1　持続可能な社会の実現に向けて、子供たちに必要な資質・能力を明確に設定すること……38
2　「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するためにカリキュラム・マネジメントの充実を図ること……38
3　持続可能な社会の実現に向けた視点を踏まえた授業改善の充実を図ること……39

講師資料

持続可能な社会を目指す学校教育の在り方 ……40

付　録

＜参考＞学習活動を評価するアンケート（例）……42
参考にした資料一覧 ……43

基 本 的 な 考 え 方

Ⅰ　研究の背景

1　学習指導要領改訂の趣旨と持続可能な開発のための教育との関連

今回改訂の学習指導要領では、これからの社会が予測困難な時代を迎える中、学校教育には子供たち一人一人が持続可能な社会の担い手として、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことができる力を身に付けさせることを求めています。その上で子供たちが、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくことや、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることを期待しています。

私たちを取り巻く環境は常に変化を続けています。中でも、環境破壊、貧困、テロ、気候変動、自然災害などといった地球規模の課題は、ますます増大し複雑化しています。したがって、持続可能な社会の構築に向けた取組は世界全体が進めるべき重要な課題といえます。

2015年９月の国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、先進国と発展途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」として、17 の目標と 169 のターゲットを掲げました。同時に学校教育においては、持続可能な開発のための教育を通じて、「全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。」ことを求めました。

【小学校・中学校学習指導要領　前文抜粋】　（下線部は本委員会によるもの）

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

【持続可能な開発目標（SDGs）】

（国際連合広報センター）

2　学習指導要領改訂の基本方針

新学習指導要領は、「これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。」ことを基本方針として改訂しています。

また、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を、子供たちが自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるように、学校が育成を目指す資質・能力を明確にすることを求めています。

そして、子供たちに「生きる力」を育むことを目指して学校の教育活動を進めるに当たっては、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを推進することに努めていくことが示されています。

（１）　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

子供たちに「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成していくための授業改善の取組は、子供たちが学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、生涯にわたって能動的に学び続けられるように、質の高い学びを実現していくことが重要であり、そのためにも主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善が欠かせません。

そこで、次の「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」といったそれぞれの視点から授業改善を推進していくことが大切です。

ア　学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点

イ　子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることなどを通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点

ウ　習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点

（２）　教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの推進

子供たちに育成を目指す資質・能力を育むためには、各学校が教育課程に基づき、組織的かつ計画的に教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図っていく必要があります。

そのためには、次の三つの側面からカリキュラム・マネジメントを推進していくことが大切です。

ア　子供や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと

イ　教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと

ウ　教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

各学校は、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を明確にし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善やカリキュラム・マネジメントの推進に努めていく必要があります。

Ⅱ　研究主題

1　研究の方向性

新学習指導要領には、「教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。」と示されています。

そこで本研究においては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」として、各学校の教育目標や地域及び子供の実態等を踏まえて明確にすることにしました。

その上で、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成に必要な学習活動を、教科等横断的な視点で組み立てたり、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を実践し、その実施状況を評価、改善したりするなどの、カリキュラム・マネジメントを通して教育活動の質の向上を図っていくことが大切であると考えました。

2　多摩地区の学校の取組の現状

東京都多摩教育事務所では、多摩地区の公立小・中学校を対象に毎年延べ 200 校程度の指導訪問を実施しています。どの学校でも教育目標の達成に向けて様々な工夫や特色ある実践が行われていますが、一方で次のような課題もみえてきます。

例えば、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善については、多くの学校が校内研究を通して実践しています。しかし、中にはそもそも何のために主体的・対話的で深い学びが必要であるかという理解が十分ではなく、授業形態を変えることだけが目的化している現状もあります。

また、教育課程に示す育成を目指す資質・能力については、一つ一つの教育活動における目的が、必ずしも資質・能力の育成につながっていないなどといった様子が散見されます。

さらに、持続可能な社会づくりに向けた教育活動の実践は、研究指定校等において価値ある取組が進められていますが、まだまだ一部の学校の実践に留まっているといった課題も見受けられます。

これらのことから、本委員会では、研究主題を次のように設定し、持続可能な社会の創り手となることが期待される子供たちを育成する学校教育の在り方について、どのように教育活動を改善していけばよいのかということを明らかにすることにしました。

〈研究主題〉　これからの時代に求められる学校教育の創造
－持続可能な社会の実現を目指した教育活動の改善を通して－

Ⅲ　研究の視点

持続可能な社会の創り手となることが期待される子供たちに必要な資質・能力を、本研究では「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」として設定し、その育成を目指した学校教育を創造していく上で、次の三つの視点から研究に取り組みました。

【視点１】「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の明確化

学校の教育目標等を踏まえて、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」をどのように明確にしていけばよいのかを校内研究を通して検証することにしました。

【視点２】教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するために、教科等横断的な視点から学習活動を一覧にしてまとめ、単元（題材）の指導計画や学習活動を評価・改善していくことにしました。

【視点３】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の充実

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための、単元（題材）の指導計画の作成や学習活動の質の向上を図る取組等について、授業実践を通して検証することにしました。

研 究 の 内 容

◆ 「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成を目指した学校教育を実現するための三つの視点

【視点１】「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の明確化

1　学校全体で育成を目指す「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」

新学習指導要領には、「教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、（後略）」と示されています。

そこで本研究では、育成を目指す資質・能力を、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」として、次の要素を踏まえながら明確にしました。

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を明確にするための要素

要素１　学校の教育目標及び子供や学校、地域の実態を踏まえた取組等

要素２　持続可能な社会づくりの構成概念（例）

人を取り巻く環境に関する概念	人の意思・行動に関する概念
Ⅰ　多様性 いろいろある	Ⅳ　公平性 一人一人大切に
Ⅱ　相互性 関わり合っている	Ⅴ　連携性 力を合わせて
Ⅲ　有限性 限りがある	Ⅵ　責任性 責任をもって

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）

① 批判的に考える力
② 未来像を予測して計画を立てる力
③ 多面的、総合的に考える力
④ コミュニケーションを行う力
⑤ 他者と協力する態度
⑥ つながりを尊重する態度
⑦ 進んで参加する態度

国立教育政策研究所「学校における持続可能な開発のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕」平成24年3月 より

2　各学年で育成を目指す「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」

学校全体で育成を目指す「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を明確にし、その内容を踏まえて各学年で育成を目指す資質・能力を、発達の段階を考慮しながら設定しました。

【「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」（例）】

〈小学校〉

○　学校の教育目標及び子供や学校、地域の実態を踏まえた取組等

・　仲よく助け合う子　・　よく考える子　・　体をきたえる子

全教育活動を通して、道徳教育や人との関わりを大切にした体験活動の充実を図りながら、人権教育を推進している。また、全教科で論理的に考える力（プログラミング的思考）の育成を目指している。

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」

		＜第５学年＞
知識及び技能	・　多様な情報を結び付けて物事の背景等を多面的に捉えるための知識や技能を身に付ける。 ・　言葉の働きや役割などを捉え、筋道立てて論理的に問題を解決するための知識や技能を身に付ける。	**ア**　様々な情報を選択したり、複数の情報を結び付けたりする知識や技能を身に付ける。 **イ**　課題を見いだし、根拠をもって課題を解決するための知識や技能を身に付ける。
思考力、判断力、表現力等	・　自分の思いや考えを表現して協働するとともに、互いのよさを認め合いながら考える力を養う。 ・　教科等の学習と身近な生活とを関連付けて捉え、よりよい解決方法を検討して探究的に学ぶ力を養う。	**ウ**　自分の思いや考えを表現し、互いのよさを認め合いながら考える力を養う。 **エ**　多様な解決方法を試し、筋道立てて探究することで、より適切に自分の考えを表現する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	・　互いの考えや思いを尊重し合い、豊かな社会をつくろうとする態度を養う。 ・　生活の中から問題を見いだし、見通しをもって主体的に解決しようとする態度を養う。	**オ**　互いの考えや思いを尊重し合い、人との関わりを大切にして主体的に学ぼうとする態度を養う。 **カ**　目標を設定し、見通しをもって手順を考え、粘り強く解決しようとする態度を養う。

【視点２】教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実

学校で設定した「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するためには、単元（題材）などの内容や時間のまとまりを見通した上で、教科等横断的な視点を踏まえて学習活動を充実させることが大切です。また、全教員が子供や学校、地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間配分、必要な人的又は物的な体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努めることが重要です。

そこで、本研究では、次の三つの取組により、単元（題材）における学習活動の質の向上を目指すこととしました。

1　必要な学習活動を教科等横断的な視点で組み立てる取組

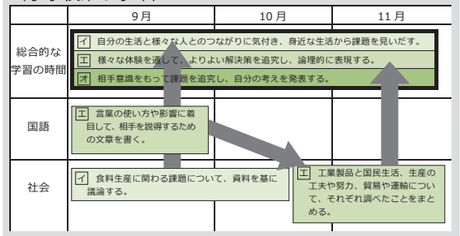
各教科等における単元（題材）などの内容や時間のまとまりの中で、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成につながる主な学習活動を、一覧としてまとめました。

その際、その学習活動が「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）のうち、どの資質・能力につながるのか、色別に示し、バランスよく資質・能力が育成できるようにしました。

また、単元（題材）の主な学習活動を設定する際には、関連がある他教科等の学習活動を踏まえて、単元（題材）の指導計画を作成しました。

【各教科等の主な学習活動の関連（例）】

〈小学校第５学年〉



2　学習活動の実施状況を評価してその改善を図る取組

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための学習活動が、子供の実態や単元（題材）のねらいを踏まえて適切であったかどうかを、アンケートや子供の学習状況等から評価しました。

その際、人的又は物的資源の活用が適正であったかについても併せて評価することを大切にしました。

そして、評価の結果から意図した「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を十分育成できなかったと判断した場合は、実施した学習活動を改善するために必要な要素を明らかにしたり、次の単元（題材）につながる学習活動を改善したりして、次年度の単元（題材）の指導計画の作成の際に生かせるようにしました。

【学習活動を評価する資料（例）】

〈アンケートの質問項目の例〉

A　人を取り巻く環境に関すること	大変そう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
Ⅰ　多様性（いろいろある）				
1　課題を解決するには、いろいろな方法があると思う。	4	3	2	1
2　考えを伝えるには、いろいろな方法があると思う。	4	3	2	1
3　自分の住む地域には、いろいろな問題や出来事が起きていると思う。	4	3	2	1
小　計				
Ⅱ　相互性（関わり合っている）				
1　学んだことを関わり合わせて考えをまとめることは大切だと思う。	4	3	2	1

3　必要な人的又は物的な体制を確保し、その改善を図る取組

地域の人材や教育資源、学習環境、教材・教具等を、単元（題材）の主な学習活動と効果的に組み合わせて指導計画を作成するようにしました。

【視点３】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の充実

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するために、欠かせない主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善には、単元（題材）などの内容や時間のまとまりを見通して、子供が主体的に学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりすることが大切です。

そして、そのためには子供が自身の学びの変容を自覚する場面や、子供が対話によって自分の考えなどを広げる場面、子供が深く考える場面をどのように組み立てるのかという観点から授業改善を行うことが大切です。

そこで本研究では、単元（題材）の指導計画を作成する際に、子供が問題（課題）を追究したり解決したりできる、習得・活用・探究という学習の過程を重視していくことが重要であると考えました。

また、教材を内容的・空間的・時間的につなげたり、子供同士や子供と他の立場、他世代の人々、地域、社会などとつなげたり、子供が身に付けた能力・態度を具体的な行動につなげたりするなどの多様な手だてを用いて学習活動を工夫しました。さらに、学習活動と関連する「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」やSDGsの活用を通して、学習活動の充実を図ることが重要であると考え、「単元（題材）の指導計画を作成する際の重点」及び「学習活動を設定する際の重点」を踏まえて、子供の学びの質を更に高めていくことを目指しました。

1　単元（題材）の指導計画を作成する際の重点

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するために、単元（題材）の指導計画については、次の三点を大切にしながら作成しました。

（1）　単元（題材）の学習の過程

子供が問題（課題）を追究し解決していく過程の中で、持続可能な社会づくりに関する価値観を身に付け、自らの意思を決定し、行動を変革していくことができるようにしました。

【単元（題材）の学習の過程（例）】

〈総合的な学習の時間の場合〉

（2）　単元（題材）を通した学習問題（課題）

子供が単元（題材）のまとまりを見通して、解決を図る学習問題（課題）を明確にしました。

（3）　主体的・対話的で深い学びの視点に立った子供の学びの姿の具体化

本時の目標を達成するための子供の学びの姿を、【表1】を参考にしながら、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点に立って明確にするとともに、「～だろうか。」「～したい。」などといった子供の思いや意思を具体的に表現しました。

【表 1】主体的・対話的で深い学びの視点

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
子供の学びの姿	○　興味・関心をもつ ○　問題（課題）意識をもつ ○　自己の課題をもつ ○　予想を立てる ○　解決の方法や手順を計画する ○　既習内容を生かす ○　新たな気付きを生みだす ○　粘り強く取り組む ○　解決の過程を振り返る	○　改善点を見いだす ○　新たな課題に気付く ○　成果や課題を自覚する ○　考えのよさに気付く ○　考えの違いに気付く ○　よりよい考えを見いだす ○　考えを統合する ○　考えを吟味・検討する ○　先哲の思いや願いを捉える	○　考えを再構築する ○　学びを自覚して、実践する ○　知識を相互に関連付けて考える ○　問題を発見し、解決方法を考える ○　情報を精査して考えを形成する ○　思いや考え（意図）を基に創造する ○　他の単元（題材）や教科等につなげて考える ○　生活や社会につなげて考える

「東京都多摩地区教育推進委員会第 23 次計画（通算第 44 年次）報告書」平成 30 年２月より

2　学習活動を設定する際の重点

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するために、次の三点を大切にしながら学習活動を設定しました。

（1）　三つのつながり

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を効果的に身に付けさせていくために、教材や人、能力・態度のつながりを手がかりとしながら、学習活動を設定しました。

教材のつながり

教材や教科等の内容的な「つながり」、教室・学校と地域・社会・国・世界との空間的な「つながり」、過去・現在・未来といった時間的な「つながり」などを図りながら学習を進め、教科等で取り上げる教材（事物、現象、題材、課題など）が他の教科等や他の学年・校種で扱われる教材とつながっていることや、実生活・実社会ともつながっていることに気付かせ、それらについて関心や認識をもたせていくとともに、相互に関連付けて見せたり考えさせたりしていくこと。

人のつながり

子供同士の「つながり」、地域との「つながり」を図りながら、多様な立場や世代の人々との「つながり」が体験できる場を用意したり、発達の段階に応じて将来世代や過去世代との「つながり」を想像させたりするなどの工夫をし、他者との対話やコミュニケーションの大切さを感じ取らせたり、他者の活動に共感させたりして、子供が必要な能力・態度を身に付けていき、新たな考えや行動を生み出していくこと。

能力・態度のつながり

各教科等における学習と活動との「つながり」や、学校と家庭・地域社会との「つながり」を図りながら、継続的・実践的な「つながり」をもった指導を推進したり、現実的な問題解決との「つながり」になるように取り組ませたりするなどの工夫をし、子供が身に付けた能力・態度を行動に移していくことや、実生活・実社会における実践につなげるようにしていくこと。

国立教育政策研究所「学校における持続可能な開発のための教育（ESD）に関する研究［最終報告書］」平成 24 年３月より

（2）　「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」の活用

学習活動の充実を図るために、各学習活動を通して身に付けることを目指す「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」と国立教育政策研究所が示した「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」（4 ページ参照）との関連を明らかにしながら学習活動を設定しました。

（3）　学習活動と関連する主な SDG s の活用

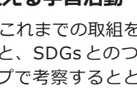
教師が意図的・計画的に学習活動とSDGsとの関連を図ったり、子供が単元（題材）を通して学習した内容を、SDGsとどのように関連させ、自身が貢献していけるのかを考えさせたりすることができるよう、学習活動に関わる主な SDGsを設定しました。

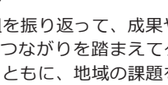
【学習活動（例）】

教材のつながり

課題を見いだす学習活動

理科の学習を基に SDGs とのつながりを踏まえた地球規模の課題と自分の住む地域の商店街の課題を比較・関連付けながら、持続可能なよりよいまちにしていくために何ができるのかを考える。　相互性　有限性





理科で学習したプラスチックのごみ問題を基に、SDGs とのつながりを踏まえた地球規模の課題を捉えるための資料の提示

現在と過去の地域の商店街を比較する資料

商店街が寂しい雰囲気になると、地域に住む人が少なくなってしまうのではないだろうか。

人のつながり

よりよい計画を考える学習活動

「まちおこしのプロ」として活動する講師の方から地域を活性化する目的や方法、取組の事例等を聞き、地域の商店街の新たな課題に気付くとともに、SDGs とのつながりを踏まえてグループで考えた計画を見直す。　多様性　公平性

地域に住む高齢者が商店街に来ることで元気になってもらえるといいな。

「まちおこしのプロ」として活動する講師の講話

能力・態度のつながり

取組を振り返り、自分のこととして捉える学習活動

これまでの取組を振り返って、成果や課題と、SDGs とのつながりを踏まえてグループで考察するとともに、地域の課題を解決するために自分ができることを考える。

実生活・社会における実践につなげる発表

連携性　責任性

今まで、地域の課題は他人事でしたが、「STP（商店街をちょっと楽しくするプロジェクト）」を通して、自分も地域の一員として何かできることをやりたいと思いました。

◆　研究概要図

これからの時代に求められる学校教育の 創造　―持続可能な社会の実現を目指した教育活動の改善を通して―

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の　育成を目指した学校教育を実現するための三つの視点

【視点１】　「持続可能な社会の創　り手に必要な資質・能力」の明確化

学校教育全体や各教科等における指導を通し　て育成を目指す資質・能力を「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」として、二つの要素を踏まえながら明確にしました。

要素１

- ◆　学校の教育目標
- ◆　子供や学校、地域の実態を踏まえた取組等

「持続可能な社　会の創り手に必要な資　質・能力」

要素２

◆　**持続可能な社会づくりの構成概念（例）**

人を取り巻く環境に関する概念	人の意思・行動に関する概念
Ⅰ　多様性	Ⅳ　公平性
Ⅱ　相互性	Ⅴ　連携性
Ⅲ　有限性	Ⅵ　責任性

◆　**ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）**

① 批判的に考える力
② 未来像を予測して計画を立てる力
③ 多面的、総合的に考える力
④ コミュニケーションを行う力
⑤ 他者と協力する態度
⑥ つながりを尊重する態度
⑦ 進んで参加する態度

国立教育政策研究所「学校における持続可能な開発のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕」平成24年3月より

【視点２】　教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するためには、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントが重要であり、以下の三つの取組により、単元（題材）における学習活動の質の向上を目指しました。

1　必要な学習活動を教科等横断的な視点で組み立てる取組

各教科等における単元（題材）などの内容や時間のまとまりの中で、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成につながる主な学習活動を、一覧としてまとめました。

そして、単元（題材）の主な学習活動を設定する際には、関連がある他教科等の学習活動を踏まえて、指導計画を作成しました。

【各教科等の主な学習活動の関連（例）】

〈小学校第５学年〉

	9月	10月	11月
総合的な学習の時間	㋐ 自分の生活と様々な人とのつながりに気付き、身近な生活から課題を見いだす。 ㋑ 様々な体験を通して、よりよい解決策を追究し、論理的に表現する。 ㋒ 相手意識をもって課題を追究し、自分の考えを発表する。		
国語	㋑ 言葉の使い方や影響に着目して、相手を説得するための文章を書く。		
社会	㋐ 食料生産に関わる課題について、資料を基に議論する。		㋑ 工業製品と国民生活、生産の工夫や努力、貿易や運輸について、それぞれ調べたことをまとめる。

2　学習活動の実施状況を評価してその改善を図る取組

学習活動が、適切であったかどうかを、アンケートや子供の学習状況等から評価しました。

そして、評価した結果から実施した学習活動を改善するために必要な要素を明らかにしたり、次につながる学習活動を改善したりして、次年度の単元（題材）の指導計画の作成の際に生かせるようにしました。

【学習活動を評価する資料（例）】

〈アンケートの質問項目の例〉

	大変そう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
A　人を取り巻く環境に関する概念				
Ⅰ　多様性（いろいろある）				
1　課題を解決するには、いろいろな方法があると思う。	4	3	2	1
2　考えを伝えるには、いろいろな方法があると思う。	4	3	2	1
3　自分の住む地域には、いろいろな問題や出来事が起きていると思う。	4	3	2	1

3　必要な人的又は物的な体制を確保し、その改善を図る取組

地域の人材や教育資源、学習環境、教材・教具等を、単元（題材）の主な学習活動と効果的に組み合わせて指導計画を作成するようにしました。

【視点３】　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の充実

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するためには、単元（題材）などの内容や時間のまとまりを見通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要です。そこで、単元（題材）の指導計画の作成及び学習活動の設定の二点を重視して、子供の学びの質を更に高めていくことを目指しました。

1　単元（題材）の指導計画を作成する際の重点

（1）　単元（題材）の学習の過程

子供が問題（課題）を追究し解決していく過程の中で、持続可能な社会づくりに関する価値観を身に付け、自らの意思を決定し、行動を変革していくことができるようにしました。

（2）　単元を通した学習問題（課題）

子供が単元（題材）のまとまりを見通して、解決を図る学習問題（課題）を明確にしました。

【単元（題材）の学習の過程（例）】

〈総合的な学習の時間の場合〉

課題の設定 → 単元を通した学習課題 → 情報の収集 → 整理・分析 → まとめ・表現

（3）　主体的・対話的で深い学びの視点に立った子供の学びの姿の具体化

本時の目標を達成するための子供の学びの姿を、「～だろうか。」「～したい。」などといった子供の思いや意思として、具体的に表現しました。

2　学習活動を設定する際の重点

（1）　三つのつながり

教材や人、能力・態度のつながりを手がかりとしながら、学習活動を設定しました。

（2）　「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」の活用

各学習活動を通して身に付けることを目指す「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」と国立教育政策研究所が示した「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」との関連を明らかにしながら学習活動を設定しました。

（3）　学習活動と関連する主なSDGsの活用

SDGsとどのように関連し、貢献していけるのかを考えることができるよう、主なSDGsを設定しました。

能力・態度のつながり

取組を振り返り、自分のこととして捉える学習活動　連携性　責任性

これまでの取組を振り返って、成果や課題と、SDGsとのつながりを踏まえてグループで考察するとともに、地域の課題を解決するために自分ができることを考える。

実生活・実社会における実践につなげる発表

今まで、地域の課題は他人事でしたが、「STP（商店街をちょっと楽しくするプロジェクト）」を通して、自分も地域の一員として何かできることをやりたいと思いました。

◆　「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための各教科等の主な　学習活動の一覧の読み方

学校全体で育成を目指す「持続可能　な社会の創り手に必要な資質・能力」

要素１と要素２を踏まえて設定した学校全体で育成を目指す「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を示しました。

要素１　学校の　教育目標及び子供や学校、地域の実態を踏まえた取組等
要素２　持続可　能な社会づくりの構成概念（例）
ESD の　視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）

各学年で育成を目指す「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」

学校全体で育成を目指す「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を踏まえて設定した、各学年で育成を目指す「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を示しました。

本研究で検証した中心となる教科等

本研究において、各学校が検証の中心とした教科等を、最上段に示しました。

単元（題材）名

年間指導計画を基に、主な単元（題材）名を示しました。

本研究で検証した単元（題材）における学習活動

本研究において、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための学習活動を検証した単元（題材）を、黒枠で囲み示しました。

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための　各教科等の主な学習活動の一覧（第３学年）

◆ 学校の教育目標　○ 考える子　○ 思いやりのある子　○ 元気な子

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	・ 客観的な情報や公平な判断に基づいて考えるための知識や技能を身に付ける。 ・ 様々な視点から課題を捉え、よりよく解決するための知識や技能を身に付ける。	・ 自分も他者も大切に　し、自分の思いや考えを的確に表現する力を養う。 ・ 自ら課題を発見し、　見通しをもって、計画的に課題を解決する力を養う。	・ 様々な人々と関わり、他者のためによりよく行動する態度を養う。 ・ 課題の解決に向けて自己の役割を果たし、自らすすんで活動する態度を養う。
<第３学年>	ア 客観的な情報や公平な判断に基づいて身近な地域の魅力、様々な課題等を考えるための知識や技能を身に付ける。 イ 複数の情報を収集して、よりよく課題を解決する知識や技能を身に付ける。	ウ 身近な人々への、自　分の思いや考えを分かりやすく表現する力を養う。 エ 課題を見いだし、様　々な解決の方法や解決の手順を考え、実行していく力を養う。	オ 自分の身近な人々と関わり、地域のために行動する態度を養う。 カ 課題の解決に向けて自己の役割を果たし、協力して活動する態度を養う。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な学習の時間	羽衣いけいけ大作戦（総合的な学習の時間ってなあに・羽衣ホタル祭りを開こう） イ 課題の解決に必要な情報を収集して、選択する。 エ 課題を見いだし、課題の解決に必要な方法や手順を考える。 オ 学習を振り返り、自分ができることを考える。					羽衣ぼかぼか大作戦　銭湯のよさを伝えよう ア 銭湯のよさや　銭湯がかかえる課題を調べる。 ウ 保護者や地域　の人に向けて、学習したことを発表する。 カ 銭湯がかかえ　る問題の解決に向けた個々の役割を決めて協力して活動する。				羽衣いけいけ・ぼかぼか大作戦 ア 地域のよさや地域がかかえる課題を調べる。 ウ 保護者や地域の人に向けて学習したことを発表する。 オ 地域の人とふれあい、地域のために何ができるのかを考える。		
国語	国語辞典の使い方 ア 同音異義語を調べて、文章にふさわしい言葉を選ぶ。	よい聞き手になろう ウ 友達の話を聞き、質問や感想を伝える。	「ありがとう」を伝えよう ウ 外部講師にお礼の手紙を書く。	本は友達 イ 自分が知りたいことを図鑑や百科事典で調べる。		伝えよう楽しい　学校 ア 紹介する話題　を調べて、グループでする。　発表	短歌を楽しもう オ 身近な秋に関する短歌を書く。	説明の工夫 エ 説明文を読み、筆者の「説明の工夫」をまとめる。	宝島の冒険	ことわざについて調べよう オ 書いた文章を推敲する。	わたしの三大ニュース ウ ３年生の生活を振り返り、家族に知らせたいニュースを文章に書く。	
社会	私たちのまち・みんなのまち　学校の周り・市の様子 オ 身近な地域の産業や地理的環境などのようについて考える。 ア 白地図に、地域のよさをまとめる。			エ 学校の周りの店や公共施設などについて、知りたいことを調べる計画を立てる。		働く人と私たちの暮らし エ 立川市で働　いている人々が自分たちの生活にどのように関わっているかなどの、知りたいことを　調べるための計画を立てる。				かわってきた人々の暮らし オ 歴史民俗資料館等を見学し、人々の生活の変化をまとめる。 イ 現在も続く伝統行事への人々の願いを調べ、カードにまとめる。		
算数	計算の仕方を考えよう エ よりよい計算の仕方を友達と伝え合う。	時刻と時間	たし算とひき算 エ ３位数どうしの計算の仕方を自力で考える。	表とグラフ ア 集めたデータを分かりやすく表す方法を伝え合う。		かけ算の筆　算 イ 計算の仕方　の考え方を発表し合い、　妥当性を検討する。	大きい数	小数 オ 身近な生活に関する問題づくりを行い、友達と解き合う。	三角形 ア 三角形の分類の仕方を考え、弁別する。	２けたのかけ算 ア 計算の仕方を図や式で説明する。	分数	□を使った式 ウ 図を基に、言葉の式をつくる。
理科	生き物を探そう ア 校庭等に出て、身の周りの生物を探して観察する。	生き物を育てよう オ 身近な地域にいるヤゴ、ホタル、チョウなどの観察や飼育を行う。		風やゴムの働き		昆虫調べ イ 昆虫を探し、　すんでいる場所や食べ　べ、昆虫と植物の関係を考える。		影と太陽	物と重さ イ 粘土などの形を変えて、重さの違いを比べる。	電気の通り道 エ 実験の予想を立て、予想を検証する方法を考える。		作って遊ぼう
音楽	明るい歌声を響かせよう イ 曲に合わせて、どのように歌うか話し合う。		リコーダーと仲良しになろう エ 息の強さが小さい時と大きい時を試し、自分のリコーダーの音を聞く。			拍の流れにのってリ　ズムを感じ取ろう	旋律の特徴を感じ取ろう ウ 自分が感じた曲想を友達に伝える。	いろいろな音の響きを感じ取ろう ウ 音色の特徴を生かして、イメージに合う音を即興で表現する。		日本の音楽に親しもう オ 我が国や郷土の伝統音楽を聴き、速度やリズムなどの特徴を考える。		音を合わせて楽しもう ウ 互いの歌声を聴き合いながら、２つの旋律を重ねて歌う。
図画工作	絵の具と水のハーモニー イ 表したい感じを表現するために、絵の具の量や水の量、筆の強弱を調整する。		ここに座ると	王様深海魚 オ 作品を鑑賞し自他のよさを見付ける。		お二人さん ウ 身近な生活か　ら想像したことを表す。	はんで表す色カタチ	みんなでオン・ステージ カ 弦楽器を作り、友達と演奏する。	にじんで広がる色の世界 エ 身近な材料を使ってどのように活動するかを考える。	ふしぎな乗り物 エ 身近なものから乗り物を想像して、描く。	光と色のファンタジー	のこぎりひいて、ザクザクザク オ 木を組み合わせた友達の作品のよさを見付ける。
体育	体ほぐしの運動 エ 掲示物等に示された運動の行い方の中から自己の課題に応じた行い方を選ぶ。	鉄棒運動 イ 手の位置や目線などの技のポイントを友達に伝える。	ネット型ゲーム カ 審判や得点係などチームで役割を決める。	水泳運動 エ 泳法に関わる自己の課題に適した課題の解決のための活動を選ぶ。		表現運動 ウ 身近な生活な　どの特徴を捉え、イメ　ージに合わせて踊る。	跳び箱運動 エ 自己の能力に適した課題を設定させ、その課題の解決のための運動の場を選ぶ。		体ほぐしの運動 カ これまで行った運動から、行ってみたい運動を選ぶ。	ベースボール型ゲーム オ ボールの正面に移動するなどの動きのよさを動作や言葉、絵図などを使って友達に伝える。		高跳び カ 助走や踏切りのポイントや友達の動きのよさを伝え合う。
外国語活動	挨拶をして友達になろう ウ 相手に伝わる様に、工夫をして挨拶を行う。		好きなものを伝えよう カ すすんで、好みを尋ねたり、答えたりして伝え合おうとする。			アル　ファベットと仲良し イ 映像の中にあ　る街中にあるアルファベットの文字を見付ける。		これなあに オ 身の回りの物の言い方や、ある物が何かを尋ねたりする。			きみは誰 ウ 絵本を聞き、「誰か」と尋ねたり、答えたりする。	
特別の教科 道徳	優しい人　大作戦 カ すすんでできる思いやりのある行動について話し合う。	ホタルの引っ越し オ 身近な自然との関わりについて話し合う。	いいち、にいっ、いいち、にいっ オ 友達と助け合ったり励まし合ったりした経験を話し合う。	ごみステーション オ ボランティアを行った後の気持ちをノートに書く。		三つの国 ア 日本と他国の相　違点や共通点について話し合う。	仲良しだから オ 自分にとって友達とは何かノートに書く。	一輪車に乗れた カ 自分の生活を振り返り、がんばってきたことを発表する。	黄色い傘 オ 共有物を今までどんな気持ちで使っていたか話し合う。	ぼくのおばあちゃん オ 保護者の家族への思いを聞く。	ふるさといいとこさがし オ 自分のまちでよさは何か考える。	それは誰の作品 オ 約束やきまりを守ることについて話し合う。
特別活動	自己紹介をしよう ウ 相手に伝わる自己紹介カードやスピーチを工夫する。	学級遊びをしよう イ 全員の考えを聞き、遊びを行う。 ウ 全員の意思を尊重して遊びを決める。		お楽しみ会をしよう エ お楽しみ会を行うための計画を立てる。		運動会を成功させ　よう イ 運動会の目標　を考え、学級の目標を　合い、決定する。　話し	健康的な生活をしよう エ 自分に合った健康に関する解決方法を決める。	掃除の仕方を見直そう イ 実践したことを振り返り、次の課題を考える。	気持ちの良い言葉遣い オ 挨拶を実践するための方法をノートに書く。	お世話になったに感謝しよう オ お世話になった人に感謝を伝える方法を考える。	6年生を送る会の計画をたてよう オ 6年生が喜んでくれることを考える。	3.11 を忘れない エ 安全を意識した行動の仕方を身に付け、実践する方法を考える。

各教科等の主な　学習活動

各学年で育成を目指す「持続可　能な社会の創り手に必要な資質・能力」に直接的にはつながらない学習活動は、空白にしました。

資質・能力とのつながりを示すための記号

各学年で育成を目指す「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」と各教科等の主な学習活動のつながりを、記号（ア～カ）を用いて示すことで分かりやすくしました。

各学年で育成を目指す「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」に示した記号

知識及び技能
ア　・　イ
思考力、判断力、表現力等
ウ　・　エ
学びに向かう力、人間性等
オ　・　カ

各教科等の主な学習活動に示した記号

知識及び技能
ア　・　イ
思考力、判断力、表現力等
ウ　・　エ
学びに向かう力、人間性等
オ　・　カ

◆　「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成する単元（題材）の指導計　画の読み方

単元（題材）を通して育成する資質・能力

各教科等で育成を目指す資質・能力を学習指導要領に則って「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で設定して、示しました。

各教科等の主な学習活動の関連

単元（題材）における「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための各教科等における「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための主な学習活動との関連の一部を記載しました。

本単元の学習活動と関連する主なSDGs

単元（題材）の学習活動において、子供がSDGsの意義や貢献の仕方について考えたり、教師が意図したりする主なSDGsを記載しました。

本時の目標

一単位時間における、学習活動を通して目指す子供の姿を示しました。

（例）

「SDGsとのつながりを踏まえた地球規模の課題と地域の商店街の課題を比較・関連付けて考察すること（**本時の学習活動**）を通して、自分の住むまちの課題を見いだす（**本時で目指す子供の姿**）。」

主体的・対話的で深い学びの視点に立った子供の学びの姿

◆　**主体的・対話的で深い学びの視点**

本時の目標を達成するための子供の学びの姿を「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点に立って、６ページの【表１】を参考にしながら示しました。

◆　**子供の学びの姿の具体化**

本時の学習内容に即して、主体的・対話的で深い学びの視点から「～だろうか。」「～したい。」などといった子供の思いや意思を具体的に示しました。

第１学年　総合的な学習の時間
単元名「ＳＴＰ（商店街をちょっと楽しくするプロジェクト）」（23　時間）

<各教科等の主な学習活動の関連>
社会：IT産業が発展した理由を、資料を基にまとめる。　数学：表、式、グラフを使って表し、その特徴を考察する。
理科：実験を通して考察し、その結果をまとめる。　音楽：よりよい表現を見いだすために意見を出し合う。
外国語：日本の伝統や文化を説明する。　など

◆　単元を通して育成する資質・能力

知識及び技能	思考力、判断　力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
多摩市の自然、文化、福祉、経済、くらし、政治等の現状と課題から、商店街の活性化が地域を持続可能にしていく手だてになることを理解するとともに、課題を解決するために必要な知識及び技能を身に付ける。	地域の課題を見いだし、解決可能な課題とともに、他者と協働的に情報収集、実態を設定し、その解決に向けた計画を立てる把握を行い、整理・分析し、文章や発話、ICT機器等を活用して表現する。	学級の他の生徒や地域の人々などと協働し、粘り強く学習に取り組むとともに、多摩市のよさを生かし、持続可能なよりよい地域にしようとする態度を育む。

◆　単元の指導計画

1 課題の設定　2 情報の収集　3 整理・分析　4 実践　5 まとめ・表現

本時の目標

【第１時】自分たちが住む地域の課題
SDGs とのつながりを踏まえた地球規模の課題と地域の商店街の課題を比較・関連付けて考察することを通して、自分の住むまちの課題を見いだす。

【第２～４時】実態把握と計画の立案
地域と近隣との商店街の様子を調査し、比較することを通して、「STP（商店街をちょっと楽しくするプロジェクト）」の計画を考える。

【第５～13 時】計画の見直し
収集した情報や自分の生活経験などと講師の講話とを関連付けて、商店街を活性化する目的を確認するとともに、よりよい計画を考える。

【第 14～18 時】計画の実施
「STP(商店街をちょっと楽しくするプロジェクト)」を実施することを通して、地域社会への参画の意識を高める。

【第 19～23 時】取組の振り返り、発表
取組の成果と課題を捉え、SDGsとのつながりを踏まえて考察することを通して、これから自分ができることを考える。

単元を通した学習課題：　自分の住むまちを持続可能なよりよいまちにするためには、どのように地域　の商店街を活性化していけばよいのだろうか。

主体的・対話的で深い学びの視点に立った子供の学びの姿

【主体的な学び】の視点
➡『課題意識をもつ』
地球規模の課題と地域の商店街の課題とは共通点がある。自分が住む地域の商店街には、なぜ人が集まらなくなったのだろうか。

【主体的な学び】の視点
➡『解決の方法や手順を計画する』
地域の商店街より、近隣の商店街の方が、人が多くて明るい感じがした。
自分が住む地域の商店街も憩いの場を作れば人が集まり、明るくなるのではないだろうか。

【対話的な学び】の視点
➡『新たな課題に気付く』
商店街を活性化することは、ただ人を集めればよいということではないのではないか。地域の資源や今あるものを活用していくことが大切なのではないだろうか。

【深い学び】の視点
➡『学びを自覚して、実践する』
地域の資源や今あるものを活用した取組は地域の活性化につながるだろう。このような取組を持続可能な取組にするために、自分には何ができるのだろうか。

【深い学び】の視点
➡『生活や社会につなげて考える』
今年の成果や課題を後輩につなげることで、この取組が持続され、更に発展してよりよいものになるのではないだろうか。
今後は積極的に地域の行事などにも参加していきたい。

◆　学習活動の展開

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための学習活動

教材のつながり
ア　課題を見いだす学習活動
理科の学習を基に SDGsとのつながりを踏まえた地球規模の課題と自分の住む地域の商店街の課題を比較・関連付けながら、持続可能なよりよいまちにしていくために何ができるのかを考える。
相互性　有限性

理科で学習したプラスチックのごみ問題を基に、SDGsとのつながりを踏まえた地球規模の課題を捉えるための資料の提示

なぜ、こんなに寂しくなってしまったのだろうか。
シャッターが閉まっている店舗が多い。
商店街が寂しい雰囲気になると、地域に住む人が少なくなってしまうのではないだろうか。

現在と過去の地域の商店街を比較する資料

人のつながり
ウ　よりよい計画を考える学習活動
「まちおこしのプロ」として活動する講師の方から地域をの商店街を活性化する目的や方法、取組の事例等を聞き、地域の新たな課題に気付くとともに、SDGsとのつながりを踏まえてグループで考えた計画を見直す。
多様性　公平性

まちを活性化するためには、その地域の資源を活用したり、誰に向けた取組なのかを明確にするなどのいくつかのポイントがあります。
多摩市の緑や公園を利用して活性化できないかな。

「まちおこしのプロ」として活動する講師の講話
地域に住む高齢者が商店街に来ることで元気になってもらえるといいな。
商店街を活性化すると、どのようなあるだろう　性化する効果か。

能力・態度のつながり
オ　取組を振り返り、自分のこととして捉える学習活動
これまでの取組を振り返って、成果や課題と、SDGsとのつながりを踏まえてグループで考察するとともに、地域の課題を解決するために自分ができることを考える。
連携性　責任性

この取組を後輩たちが継続し、更に発展させていくためには、今年の成果や課題を伝えることが大切だね。

学校の取組から自分の行動につなげる取組についての話合い

実生活・実社会における実践につなげる発表
今まで、地域の課題は他人事でしたが、「STP（商店街をちょっと楽しくするプロジェクト）」を通して、自分も地域の一員として何かできることをやりたいと思いました。

◆　単元の学習活動と関連する主な SDGs

◆　子供の変容

○　アンケートの結果より

「課題を解決するには、いろいろな方法がある。」等の多様性に関わる内容や、「自分の住む地域をよりよくするために力を合わせている。」等の連携性に関わる内容、「自分の住む地域をよりよくするために、責任のある行動をしていると思う。」等の責任性に関する内容については、肯定的な回答が高くなりました。

一方で、公平性に関わる内容については、肯定的な回答が低くなりましたが、これは仲間と目的をもって活動したことで、互いの意見をより尊重したいという意識の高まりによるものだと考えられます。

質問項目	肯定的な回答
課題を解決するには、いろいろな方法があると思う(多様性)。	97% ➡99%
一人一人の気持ちを理解し、行動できる集団になるために行動していると思う(公平性)。	83% ➡79%
自分の住む地域をよりよくするために、力を合わせていると思う(連携性)。	66% ➡78%
自分が住む地域をよりよくするために、責任のある行動をしていると思う（責任性）。	65% ➡72%

◆　成果と課題

○　成果
身近な地域の商店街の課題を見いだし、商店街を活性化させるために考えた計画を実践する学習活動は、子供たちが地域の課題を自分のこととして捉えることで連携性や責任性に関わる資質・能力の育成につながりました。

○　課題
身近な商店街の様子から、地域と多摩市や東京都、更に世界的な課題へと視野を広げられることを意図したものの、その手だてには更なる工夫が必要です。

子供の変容

単元（題材）の最初と最後に実施した「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」を踏まえたアンケート結果や、子供の学習状況等から分析した考察を記載しました。

単元（題材）を通した学習問題（課題）

子供が、単元（題材）のまとまりを見通して、解決を図る学習問題（課題）を示しました。

成果と課題

単元（題材）における「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成についての成果と課題を記載しました。

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための学習活動

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための各教科等の主な学習活動の一覧に示された学習活動を、単元（題材）に即して具体的に示しました。

「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」

学習活動を通して身に付けることを目指す「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」（４ページ参照）との関連を示しました。

三つのつながり

学習活動を構成する際に留意した「教材のつながり」「人のつながり」「能力・態度のつながり」（７ページ参照）を示しました。

【実践事例１】　小学校　総合的な学習の時間の取組（第３学年）

立川市立第六小学校

本校は、平成 29・30・31 年度立川市教育力向上推進モデル校として、「まちを知り、まちに愛着をもち、まちに貢献できるまちの担い手の育成」を研究主題とし、生活科及び総合的な学習の時間を中心に、市独自に設定する「立川市民科」の研究開発を進めている。平成 30 年度は研究授業を６回行い、「地域の一員として社会に目を向け、よりよい社会を築くために自ら課題を見付け、学び、考え実践しようとする教材」について追究し、子供たち一人一人が自己の生き方について考えていくことができる資質・能力の育成に取り組んだ。

今年度は、年度当初の校内研究会において、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成を目指す視点から、本単元と既習内容や今後の学習内容とのつながり、地域人材の有効な活用の仕方等について全教員で確認した。また、「立川市民科」の実践に、全学年が SDGs との関連を位置付けている。さらに各教科等で行う授業においても、これらのつながりを意識することの重要性を共有し、教科等横断的な視点をもって授業改善に取り組んでいる。

指導案の検討

学校の教育目標　　○　考える子　　○　思いやりのある子　　○　元気な子

◆　「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・　客観的な情報や公平な判断に基づいて考えるための知識や技能を身に付ける。	・　自分も他者も大切にし、自分の思いや考えを的確に表現する力を養う。	・　様々な人々と関わり、他者のためによりよく行動する態度を養う。
・　様々な視点から課題を捉え、よりよく解決するための知識や技能を身に付ける。	・　自ら課題を発見し、見通しをもって、計画的に課題を解決する力を養う。	・　課題の解決に向けて自己の役割を果たし、自らすすんで活動する態度を養う。

＜第３学年＞

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ア　客観的な情報や公平な判断に基づいて身近な地域の魅力、様々な課題等を考えるための知識や技能を身に付ける。 **イ**　複数の情報を収集して、よりよく課題を解決する知識や技能を身に付ける。	**ウ**　身近な人々への、自分の思いや考えを分かりやすく表現する力を養う。 **エ**　課題を見いだし、様々な解決の方法や解決の手順を考え、実行していく力を養う。	**オ**　自分の身近な人々と関わり、地域のために行動する態度を養う。 **カ**　課題の解決に向けて自己の役割を果たし、協力して活動する態度を養う。

＜各教科等の主な学習活動の関連＞ P.16・17 参照

	４月	５月	６月	７月
総合的な学習の時間	**イ**　課題の解決に必要な情報を収集して、選択する。 **エ**　課題を見いだし、課題の解決に必要な方法や手順を考える。 **オ**　学習を振り返り、自分ができることを考える。			
社会	**オ**　身近な地域の産業や地理的環境などのよさについて考える。			**エ**　学校の周りの店や公共施設などについて、知りたいことを調べる計画を立てる。
理科		**オ**　身近な地域にいるヤゴ、ホタル、チョウなどの観察や飼育を行う。		

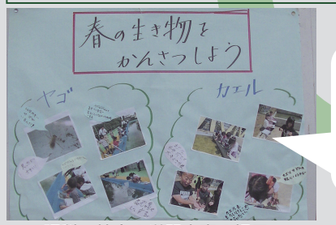
本校では、総合的な学習の時間を中心に「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成している。本単元では、社会や理科と関連を図り、身近な人々と関わりながら地域のために行動する態度を育成している。

大単元名「羽衣いけいけ大作戦」（28 時間）
単元名「羽衣ホタル祭りを開こう」（14 時間）の学習の過程　P.18・19 参照

単元の学習活動と関連する主な SDGs

1　課題の設定

理科や社会の既習内容を基に、地域の生き物や自然環境等を関連付けて、地域のためにできることを SDGs とのつながりを踏まえて考える。



理科、社会の学習内容の提示

自然が豊かで色々な生き物がいるような地域にするために、何ができるだろうか。

単元を通した学習課題
ホタルを見ることができる地域にするためには、どのような取組をすればよいのだろうか。

2　情報の収集

ホタルの生態に詳しい講師の方から、昔と今の地域の自然環境の変化やホタルの育て方に関する話を聞き、地域の人たちに伝えたい内容を考える。

ホタルが減少したのは、人間の生活が影響していることを伝えたらよいのではないだろうか。

自然保護の専門家の講話

3　整理・分析

友達が作成したパンフレットを見て、よいところを自分のパンフレットに取り入れ、内容を修正する。

パンフレットの作成

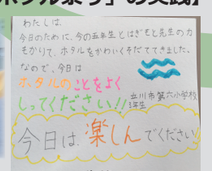
パンフレットには、環境の大切さを伝える内容も入れた方がよいのではないだろうか。

4　まとめ・表現

生活排水が自然環境に与える影響に関する資料や SDGs とのつながりから、日常生活で、環境保全のために自分ができることを考えて、日常生活で、環境保全のために自分ができることを考える。

【「羽衣ホタル祭り」の実践】

ポップの配布



ホタルの生態や SDGs との関連を説明したポップ

ホタル祭りの意図を説明したポップ

私たちが自然環境に配慮した生活に変えて、ホタルを見ることのできる地域にしていきたいです。

ホタルまつりに関する探究活動と自分の生活をつなげて考える場面

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための　各教科等の主な学習活動の一覧（第３学年）

◆　学校の教育目標　○　考える子　　○　思いやりのある子　　○　元気な子

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	・　客観的な情報や公平な判断に基づいて考えるための知識や技能を身に付ける。 ・　様々な視点から課題を捉え、よりよく解決するための知識や技能を身に付ける。	・　自分も他者も大切に　し、自分の思いや考えを的確に表現する力を養う。 ・　自ら課題を発見し、　見通しをもって、計画的に課題を解決する力を養う。	・　様々な人々と関わり、他者のためによりよく行動する態度を養う。 ・　課題の解決に向けて自己の役割を果たし、自らすすんで活動する態度を養う。
＜第３学年＞	**ア**　客観的な情報や公平な判断に基づいて身近な地域の魅力、様々な課題等を考えるための知識や技能を身に付ける。 **イ**　複数の情報を収集して、よりよく課題を解決する知識や技能を身に付ける。	**ウ**　身近な人々への、自　分の思いや考えを分かりやすく表現する力を養う。 **エ**　課題を見いだし、様　々な解決の方法や解決の手順を考え、実行していく力を養う。	**オ**　自分の身近な人々と関わり、地域のために行動する態度を養う。 **カ**　課題の解決に向けて自己の役割を果たし、協力して活動する態度を養う。

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
総合的な学習の時間	羽衣いけいけ大作戦（総合的な学習の時間ってなあに・羽衣ホタル祭りを開こう） イ　課題の解決に必要な情報を収集して、選択する。 エ　課題を見いだし、課題の解決に必要な方法や手順を考える。 オ　学習を振り返り、自分ができることを考える。					羽衣ぽかぽか大作戦　銭湯のよさを伝えよう ア　銭湯のよさや　銭湯がかかえる課題を調べる。 ウ　保護者や地域　の人に向けて、学習したことを発表する。 カ　銭湯がかかえ　る問題の解決に向けた個々の役割を決めて協力して活動する。				羽衣いけいけ・ぽかぽか大作戦 ア　地域のよさや地域がかかえる課題を調べる。 ウ　保護者や地域の人に向けて学習したことを発表する。 オ　地域の人とふれあい、地域のために何ができるのかを考える。		
国語	国語辞典の使い方 ア　同音異義語を調べて、文章にふさわしい言葉を選ぶ。	よい聞き手になろう ウ　友達の話を聞き、質問や感想を伝える。	「ありがとう」を伝えよう ウ　外部講師にお礼の手紙を書く。	本は友達 イ　自分が知りたいことを図鑑や百科事典で調べる。		伝えよう楽しい　学校 ウ　紹介する話題　を調べて,グループで　発表する。	短歌を楽しもう オ　身近な秋に関する短歌を書く。	説明の工夫 エ　説明文を読み、筆者の「説明の工夫」をまとめる。	宝島の冒険	ことわざについて調べよう ア　書いた文章を推敲する。	わたしの三大ニュース ウ　３年生の生活を振り返り、家族に知らせたいニュースを文章に書く。	
社会	私たちのまち　みんなのまち　学校の周り・市の様子 オ　身近な地域の産業や地理的環境などのよさについて考える。 ア　白地図に、地域のよさをまとめる。		エ　学校の周りの店や公共施設などについて、知りたいことを調べる計画を立てる。			働く人と私たちの暮らし エ　立川市で働　いている人々が自分たちの生活にどのように関わっているかなどの、知りたいことを　調べるための計画を立てる。				かわってきた人々の暮らし オ　歴史民俗資料館等を見学し、人々の生活の変化をまとめる。 イ　現在も続く伝統行事への人々の願いを調べ、カードにまとめる。		
算数	計算の仕方を考えよう エ　よりよい計算の仕方を友達と伝え合う。	時刻と時間	たし算とひき算 エ　３位数どうしの計算の仕方を自力で考える。	表とグラフ ウ　集めたデータを分かりやすく表す方法を伝え合う。		かけ算の筆　算 イ　計算の仕方　の考え方を発表し合い、　妥当性を検討する。	大きい数	小数 オ　身近な生活に関する問題づくりを行い,友達と解き合う。	三角形 ア　三角形の分類の仕方を考え、弁別する。	２けたのかけ算 ウ　計算の仕方を図や式で説明する。	分数	□を使った式 ウ　図を基に、言葉の式をつくる。
理科	生き物を探そう ア　校庭等に出て、身の周りの生物を探して観察する。	生き物を育てよう オ　身近な地域にいるヤゴ、ホタル、チョウなどの観察や飼育を行う。		風やゴムの働き		昆虫調べ イ　昆虫を探し、すんでいる場所や食べ　ている物を調べ、昆虫と植物の関係を考える。		影と太陽	物と重さ イ　粘土などの形を変えて、重さの違いを比べる。	電気の通り道 エ　実験の予想を立て、予想を検証する方法を考える。		作って遊ぼう
音楽	明るい歌声を響かせよう イ　曲に合わせて、どのように歌うか話し合う。		リコーダーと仲良しになろう エ　息の強さが小さい時と大きい時を試し、自分のリコーダーの音を聞く。			拍の流れにのってリ　ズムを感じ取ろう	旋律の特徴を感じ取ろう ウ　自分が感じた曲想を友達に伝える。	いろいろな音の響きを感じ取ろう ウ　音色の特徴を生かして、イメージに合う音を即興で表現する。		日本の音楽に親しもう オ　我が国や郷土の伝統音楽を聴き、速度やリズムなどの特徴を考える。		音を合わせて楽しもう ウ　互いの歌声を聴き合いながら、２つの旋律を重ねて歌う。
図画工作	絵の具と水のハーモニー イ　表したい感じを表現するために、絵の具の量や水の量、筆の強弱を調整する。		ここに座ると	王様深海魚 オ　作品を鑑賞し自他のよさを見付ける。		お二人さん ウ　身近な生活か　ら想像したことを表す。	はんで表す色カタチ	みんなでオン・ステージ カ　弦楽器を作り、友達と演奏する。	にじんで広がる色の世界 エ　身近な材料を使ってどのように活動するかを考える。	ふしぎな乗り物 エ　身近なものから乗り物を想像して、描く。	光と色のファンタジー	のこぎりひいて、ザクザクザク オ　木を組み合わせた友達の作品のよさを見付ける。
体育	体ほぐしの運動 エ　掲示物等に示された運動の行い方の中から自己の課題に応じた行い方を選ぶ。	鉄棒運動 イ　手の位置や目線などの技のポイントを友達に伝える。	ネット型ゲーム カ　審判や得点係などチームで役割を決める。	水泳運動 エ　泳法に関わる自己の課題に適した課題の解決のための活動を選ぶ。		表現運動 ウ　身近な生活な　どの特徴を捉え、イメージに合わせて踊る。	跳び箱運動 エ　自己の能力に適した課題を設定させ、その課題の解決のための運動の場を選ぶ。		体ほぐしの運動 カ　これまで行った運動から、行ってみたい運動を選ぶ。	ベースボール型ゲーム オ　ボールの正面に移動するなどの動きのよさを動作や言葉、絵図などを使って友達に伝える。		高跳び カ　助走や踏切りのポイントや友達の動きのよさを伝え合う。
外国語活動	挨拶をして友達になろう ウ　相手に伝わる様に、工夫をして挨拶を行う。		好きなものを伝えよう カ　すすんで、好みを尋ねたり、答えたりして伝え合おうとする。			アル　ファベットと仲良し イ　映像の中にあ　る街中にあるアルファベットの文字を見付ける。		これなあに オ　身の回りの物の言い方や、ある物が何かを尋ねたりする。			きみは誰 ウ　絵本を聞き、「誰か」と尋ねたり、答えたりする。	
特別の教科道徳	優しい人　大作戦 カ　すすんでできる思いやりのある行動について話し合う。	ホタルの引っ越し オ　身近な自然との関わりについて話し合う。	いいち、にいっ、いいち、にいっ オ　友達と助け合ったり励まし合ったりした経験を話し合う。	ごみステーション オ　ボランティアを行った後の気持ちをノートに書く。		三つの国 ア　日本と他国の相　違点や共通点について話し合う。	仲良しだから オ　自分にとって友達とは何かノートに書く。	一輪車に乗れた カ　自分の生活を振り返り、がんばっていることを発表する。	黄色い傘 オ　共有物を今までどんな気持ちで使っていたか話し合う。	ぼくのおばあちゃん オ　保護者の家族への思いを聞く。	ふるさといいとこさがし オ　自分のまちのよさは何か考える。	それは誰の作品 オ　約束やきまりを守ることについて話し合う。
特別活動	自己紹介をしよう ウ　相手に伝わる自己紹介カードやスピーチを工夫する。	学級遊びをしよう イ　全員の考えを聞き、遊びを行う。 ウ　全員の意思を尊重して遊びを決める。		お楽しみ会をしよう エ　お楽しみ会を行うための計画を立てる。		運動会を成功させ　よう イ　運動会の目標を、学級の目標を考え、話し合い、決定する。	健康的な生活をしよう エ　自分に合った健康に関する解決方法を決める。	掃除の仕方を見直そう イ　実践したことを振り返り、次の課題を考える。	気持ちの良い言葉遣い オ　挨拶を実践するための方法をノートに書く。	お世話になった人に感謝しよう オ　お世話になった人に感謝を伝える方法を考える。	６年生を送る会の計画をたてよう オ　６年生が喜んでくれることを考える。	3.11 を忘れない エ　安全を意識した行動の仕方を身に付け、実践する方法を考える。

第３学年　総合的な学習の時間
単元名「羽衣ホタル祭りを開こう」（14 時間）

<各教科等の主な学習活動の関連>
国語：自分が知りたいことを図鑑や百科事典で調べる。
理科：身近な地域にいるヤゴ、ホタル、チョウなどの観察や飼育を行う。
体育：掲示物等に示された運動の行い方の中から自己の課題に応じた行い方を選ぶ。
社会：身近な地域の産業や地理的環境などのよさについて考える。
特別の教科　道徳：身近な自然との関わりについて話し合う。
など

◆　単元を通して育成する資質・能力

知識及び技能	思考力、判断　力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地域や学校などの身近な社会と関わりながら、水質や生き物などの自然環境の課題を理解し、地域の環境保全に関わる概念を形成するとともに、課題の解決に必要な知識や技能を身に付ける。	地域の自然環境に関わる課題を設定し、様々な解決の方法を考え、必要な情報を集めて、課題を解決するとともに、伝え方を工夫して自分の意見を表現する。	友達や地域の人々の思いや地域のよさを生かしながら、自分ができることを主体的に取り組もうとする態度を育む。

◆　単元の指導計画

1 課題の設定	2 情報の収集	3 整理・分析	4 まとめ・表現
本時の目標			
【第１時】生き物のすむ環境 地域の生き物と自然環境を関連付けて地域のためにできることを考えることを通して、課題を見いだす。	【第２～５時】ホタル祭りの計画 地域の実態や学校の取組を関連付けて考えることを通して、地域をよりよくするための計画を考える。	【第６～８時】計画の見直し 昔と今の地域の自然環境を比較して考えることを通して、ホタルの育て方や環境保全に関する情報を収集する。	【第９～11 時】ホタル祭りの準備 ホタルを増やすためにできることと人々の生活とを関連付けて考えることを通して、自然の大切さを伝える方法を工夫する。	【第 12～14 時】振り返りと生活への生かし方 ホタルなどの生き物が生息する自然環境と自分の生活を関連付けることを通して、日常生活で環境保全のためにできることを考える。
主体的・対話的で深い学びの視点に立った子供の学びの姿			
単元を通した学習課題：　ホタルを見ることのできる地域にするためには、どのような取組をすれ　ばよいのだろうか。			
【主体的な学び】の視点 ➡『課題意識をもつ』 自然が豊かで生き物がたくさんいるような地域にするためには、何ができるのだろうか。	【主体的な学び】の視点 ➡『解決の方法や手順を計画する』 地域の人たちがホタル祭りにたくさん参加してもらえるようにするためには、どのような取組をすればよいのだろうか。	【対話的な学び】の視点 ➡『よりよい考えを見いだす』 ホタルが減少した原因には、わたしたちの生活の仕方も影響していることを地域の人たちに伝えたらよいのではないだろうか。	【深い学び】の視点 ➡『知識を相互に関連付けて考える』 ポップやパンフレットには、ホタルや地域の自然を守ろうというメッセージが伝わるように書いたらよいのではないだろうか。	【深い学び】の視点 ➡『生活や社会につなげて考える』 私たちが自然環境を守ることに配慮した生活に変えていき、ホタルを見られる地域にしていきたい。

◆　学習活動の展開

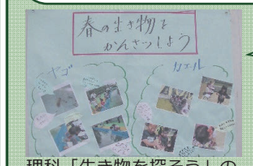
「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための学習活動

教材のつながり

エ　既習内容を踏まえて、課題を見いだす学習活動

理科や社会の既習内容を基に、地域の生き物や自然環境等を関連付けて、地域のためにできることを SDGsとのつながりを踏まえて考える。

多様性　公平性



理科「生き物を探そう」の掲示資料

理科の学習では、生き物が減っていることが分かりました。

社会の「学校の周りの様子」の掲示資料

社会では、地域に公園や川があることが分かりました。

理科や社会で学んだことを基に、地域をよりよくするためにどんな取組をしたいですか。

ホタルを自分たちで育てて、地域の人たちが喜んでくれるようなお祭りをしたいです。

既習内容を踏まえ、探究的な学習を促す発問

人のつながり

イ　課題の解決に必要な情報を収集する学習　活動

ホタルの生態に詳しい講師の方から、昔と今の地域の変化やホタルの育て方に関する話を聞き、地域の自然環境の人たちに伝えたい内容を考える。

有限性　連携性

ホタルが減ってきたのは、私たちが、生活している中で水を汚していることが関係しています。

自然保護の専門家の講話

ホタルをたくさん見られる自然環境にするために、自然環境にやさしい生活について地域の人たちに伝えていきたい。

能力・態度のつながり

オ　学習を振り返り、自分ができることを考える学習活動

生活排水が自然環境に与える影響に関する資料やSDGsとのつながりから、日常生活で、環境保全のために自分ができることを考える。

相互性　責任性

〔ホタルまつりに関する探究活動と自分の生活をつなげて考える場面〕

自然環境をよくしていくために、お手伝いをするときは、洗剤を使い過ぎないようにしたいです。

少しでも自然環境をよくするために、買い物のときには、エコバッグを使うようにしたいです。

◆　単元の学習活動と関連する主な SDGs

◆　子供の変容

○　アンケートの結果より

地域の方から学び、関わりながら友達と協力して取り組んだことで、多様性や連携性については、肯定的な回答が高くなりました。

公平性については、肯定的な回答が低くなりましたが、これは、取組を進める中で子供から「日本人だけではなく、地球のみんなの気持ちも考えて行動しないと不平等だと思う。」といった意見があったことから、地球規模の課題を捉える意識が高まったことによるものだと考えられます。

質問項目	肯定的な回答
課題を解決するためには、いろいろな方法があると思う（多様性）。	83% ➡100%
限りある時間は計画的に使うことが大切だと思う（有限性）。	89% ➡ 93%
一人一人の意見を大切にして話合いに参加していると思う（公平性）　。	85% ➡ 82%
他の人と力を合わせて課題を解決していると思う（連携性）。	90% ➡100%

◆　成果と課題

○　成果

環境保全につなげていくための学習活動を行ったことにより、地域の人たちから多くの感謝の言葉をもらうことができ、達成感を味わえた子供たちは、更に広い視野で地域の自然環境について考えられるようになりました。

○　課題

本事例では、理科や社会で身に付けた資質・能力を発揮しながら総合的な学習の時間に取り組みました。今後は、全ての教科等で、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成する学習活動を展開する必要があります。

【実践事例２】　中学校　総合的な学習の時間の取組（第１学年）

多摩市立青陵中学校

本校は、平成 25 年度にユネスコスクールに承認されたことを機に、生徒が「2050 年の多摩市の担い手」として、地域に貢献し社会を変える人材となれるよう、未来を切り拓く課題解決力を育成することを目指した教育活動を推進している。

今年度は、年度当初の校内研究会で ESD（持続可能な開発のための教育）について研鑽するとともに、１学期中に全教員が ESD の視点を意識した授業研究を行った。

本研究を通して、各学年の「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を明確化した。その上で、全教員が学年や教科等の枠を越えて、各教科等の特質を生かしてどのような学習活動を取り入れていくことが必要なのかを協議しながら、全学年の学習活動の一覧を作成した。

SDGsの色を意識したベンチの色塗り

学校の教育目標　○ 自ら学ぶ力　○ 共に生きる心　○ 健やかな体　○ 品格ある態度

◆　「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・　社会の事象や様々な物事を多面的な視点で捉え、主体的に問題を見いだし解決するための方向性を明確にするための知識や技能を身に付ける。 ・　解決可能な計画を立て、結果を予測しながら実行し、その過程を振り返って次の問題発見・解決に向かうための知識や技能を身に付ける。	・　社会の事象や様々な物事を多面的・多角的に考察し、公平な判断に基づいて本質を見抜く力を養う。 ・　自分の意見を、根拠を基に伝えたり、ICT 機器等を活用して表現したりして、他者と合意形成を図って問題を解決する力を養う。	・　社会の一員としての責任や義務について自覚し、よりよい社会の実現に向けて、すすんで社会貢献や地域貢献をしようとする態度を養う。 ・　自分と他者との異同を理解し、互いの関係を調整するとともに、他者と協働して粘り強く問題を解決しようとする態度を養う。

＜第１学年＞

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ア　身近な社会の事象や物事から、問題や自分にできる目標を見いだし、課題を解決するための知識や技能を身に付ける。 **イ**　解決可能な計画を立て、その計画を実行し、結果を振り返って、自分の生活に生かすための知識や技能を身に付ける。	**ウ**　身近な社会の事象や物事に対する自分の意見とは異なる意見について、公平な判断に基づいて比較したり、考察したりする力を養う。 **エ**　自分の考えを、根拠を基に伝えたり、ICT 機器等を活用して表現したりして、他者と協働してよりよい解決の方法を考える力を養う。	**オ**　社会規範やルールを尊重し、自らの役割を自覚して、地域社会に参画しようとする態度を養う。 **カ**　自分と他者との意見を比較し、互いのよさを認めるとともに、他者と協働して粘り強く問題を解決しようとする態度を養う。

＜各教科等の主な学習活動の関連＞ P.22・23 参照

	9月	10 月	11 月
総合的な学習の時間	**ア**　自分の住む地域や近隣の商店街を調べ、自ら課題を見いだし、解決方法を考える。 **ウ**　グループで意見を出し合い、商店街を活性化するために自分たちができるよりよい計画を検討する。 **オ**　自らの役割に責任をもって、計画を進め、取組を振り返りながら評価・改善する。		
数学	**ア**　身近なものの数量関係を、一次方程式を用いて表し、問題解決を図る。	**ウ**　二つの数量の関係を表、式、グラフを使って表し、その特徴を考察する。	
理科	**ア**　様々な物質の共通点や差異点を見いだし、分類する。	**ア**　状態変化や融点・沸点・濃度・溶解度について実験を通して考察し、その結果をまとめる。	

本校では、総合的な学習の時間を中心として「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成している。また、全教員で学習活動の一覧を作成することにより、教科等横断的な視点から担当する教科の学習活動の改善を図っている。

単元名「STP（商店街をちょっと楽しくするプロジェクト）」の学習の過程

P.24・25 参照

単元の学習活動と関連する主な SDGs

1　課題の設定

地球規模の課題と自分の住む地域の商店街の課題を比較・関連付けながら、SDGsとのつながりを踏まえたよりよいまちづくりを考える。

SDGsの提示

よりよいまちにするために何かできることはないだろうか。

単元を通した学習課題

自分の住むまちを持続可能なよりよいまちにするためには、どのように地域の商店街を活性化していけばよいのだろうか。

2　情報の収集

3　整理・分析

「まちおこしのプロ」として活動する講師の方から地域を活性化する目的や方法、取組の事例等を聴き、新たな課題に気付くとともに、計画を見直す。

講師の講話

地域の資源をどのように活用していくかが大切なのではないだろうか。

4　実践

グループで計画した「商店街をちょっと楽しくするプロジェクト」を実践し、地域社会への参画の意識を高める。

足湯の準備

地域の人たちに喜んでもらえるだろうか。

休憩所での販売

休憩所に来たいろいろな世代の人と話ができて楽しいな。

シャッターアートの制作

写真を撮るために多くの人が来てくれると、商店街にも人が増えるのではないだろうか。

5　まとめ・表現

取組を振り返ることで成果や課題と、SDGs とのつながりを踏まえてグループで考察するとともに、地域の課題を解決するために自分ができることを考える。

単元の振り返り

日常の自分の行動が地域貢献や SDGs につながるとうれしい。

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための各　教科等の主な学習活動の一覧（第１学年)

◆　学校の教育目標　　○　自ら学ぶ力　　○　共に生きる心　　○　健やかな体　　○　品格ある態度

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	・　社会の事象や様々な物事を多面的な視点で捉え、主体的に問題を見いだし解決するための方向性を明確にするための知識や技能を身に付ける。 ・　解決可能な計画を立て、結果を予測しながら実行し、その過程を振り返って次の問題発見・解決に向かうための知識や技能を身に付ける。	・　社会の事象やづいて本質を見 ・　自分の意見を、して、他者と合 様々な物事を多面的・多角的に考察し、公平な判断に基抜く力を養う。 根拠を基に伝えたり、ICT 機器等を活用して表現したり意形成を図って問題を解決する力を養う。	・　社会の一員としての責任や義務について自覚し、よりよい社会の実現に向けて、すすんで社会貢献や地域貢献をしようとする態度を養う。 ・　自分と他者との異同を理解し、互いの関係を調整するとともに、他者と協働して粘り強く問題を解決しようとする態度を養う。
＜第１学年＞	**ア**　身近な社会の事象や物事から、問題や自分にできる目標を見いだし、課題を解決するための知識や技能を身に付ける。 **イ**　解決可能な計画を立て、その計画を実行し、結果を振り返って、自分の生活に生かすための知識や技能を身に付ける。	**ウ**　身近な社会の公平な判断に基 **エ**　自分の考えを、して、他者と協 事象や物事に対する自分の意見とは異なる意見について、づいて比較したり、考察したりする力を養う。 根拠を基に伝えたり、ICT 機器等を活用して表現したり働してよりよい解決の方法を考える力を養う。	**オ**　社会規範やルールを尊重し、自らの役割を自覚して、地域社会に参画しようとする態度を養う。 **カ**　自分と他者との意見を比較し、互いのよさを認めるとともに、他者と協働して粘り強く問題を解決しようとする態度を養う。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な学習の時間	自己理解と夢の実現　～ドリームマップ～ イ　自分の将来を描き、工夫してドリームマップを作成し、自分の生活に生かせることを考える。 エ　工夫してドリームマップを作成し、ICT 機器を活用して発表する。 カ　互いのドリームマップのよさを認め合い、よりよい社会の実現について考える。					地域　の魅力を探る　～STP（商店街をちょっと楽しくするプロジェクト）～ ア　自分の住む地域　や近隣の商店街を調べ、自ら課題を見いだし、解決方法を考える。 ウ　グループで意見　を出し合い、商店街を活性化するために自分たちができるよりよい計画を検討する。 オ　自らの役割に責　任をもって、計画を進め、取組を振り返りながら評価・改善する。				毎日の健康な生活とストレス イ　自分の生活と学習を関連付けて振り返り、自分の生活の改善策を考える。 ウ　自他の意見を比較して、よりよい生活について考える。 カ　他者の改善策を参考にして、自分のよりよい生活の改善策を考える。		
国語	野原はうたう ウ　表現の特徴を文章にまとめ、発表する。	わかりやすく説明しよう イ　目的や意図に応じて情報を聞きとり、伝えたいことを整理する。	ダイコンは大きな根？ちょっと立ち止まって ウ　多面的な視野で筆者の主張をまとめる。	「好きなもの」を紹介しよう ア　聞き手が知りたい情報を考えて、分かりやすくスピーチする。		大人になれなかった弟たちに… ウ　登場人物のものの見方や感じ方を考えて読む。	調べたことを報告しよう ア　日常生活の中から話題を探し、報告の文章（レポート）を書く。	今に生きる言葉 イ　様々な故事成語の由来と意味を調べ、発表する。	根拠を明確にして魅力を伝えよう ウ　観点を決めて作品を鑑賞し、その魅力を伝える文章を書く。	少年の日の思い出 ウ　作品を読み、登場人物の心情の移り変わりを文章にまとめる。	印象深く思いを伝えよう イ　伝えたい自分の考えや気持ちを、相手や目的を考えながら書く。	ポスターセッションをする エ　発表したり、発表を聞いたりして質問や助言をする。
社会	世界の姿 エ　大陸と海洋の分布を比較し、グループでその違いをまとめる。	世界各地の人々の生活と環境 イ　自然環境とそれに関係する衣食住の在り方についてまとめる。	古代までの日本 ア　土器の違いを時代の特色などと関連付けてまとめる。	ウ　大化の改新を多面的・多角的に考察したものを発表する。		古代までの日本 イ　国風文化の特徴を、飛鳥文化や天平文化と比較し、まとめる。	世界の諸地域 ウ　インドで IT 産業が発展した理由を、資料を基にまとめる。	オ　モノカルチャー経済の危険性や多様性について考える。	エ　アメリカの都市の駐車場が他の地域と比べて広い理由を、グループで意見をまとめる。	カ　ツバルという島国が海に沈んでしまう危険性と環境問題とを関連付けて考える。	中世の日本 ア　鎌倉時代の成立に関わる説を選び、根拠をもって説明する。	ア　応仁の乱が起こった理由を多面的・多角的に考察し、まとめる。
数学	正負の数 ア　気温の変化や、標高の差など、身近な事象を数理的に捉え、正負の数を用いて表す。		文字と式 ウ　日常の事象を数理的に捉え、等号や不等号を使って式で表すとともに、その式を数学的な表現を用いながら筋道立てて説明し、伝え合う。			方程式 ア　身近なものの数量関係を、一次方程式を用いて表し、問題解決を図る。	比例と反比例 ウ　二つの数量の関係を表、式、グラフを使って表し、その特徴を考察する。	平面図形 エ　基本的な図形の性質を用いて、作図の仕方を説明し、よりよい作図の方法を検討する。		空間図形 エ　身近なものの中にある、辺や面の関係を「平行・垂直・ねじれの位置」という言葉を使いながら説明し、伝え合う。		資料の分析と活用 ウ　度数分布表やヒストグラムを作成し、資料の傾向を考察する。
理科	植物の体のつくりとはたらき イ　自らすすんで植物の観察や実験に計画的に取り組む。	ウ　植物の体のつくりと働きとを関連付けて共通点や差異点を見いだす。	エ　光合成・呼吸・蒸散について実験を行い、グループで話し合い考察する。	植物のなかま分け イ　多様な植物体のつくりを分類する。		いろいろな物質 気体の発生 ア　様々な物質の共通点や差異点を見いだし、分類する。	物質の状態変化 水溶液 ア　状態変化や融点・沸点・濃度・溶解度について実験を通して考察し、その結果をまとめる。		光の性質 音の性質 エ　実験を通して、光や音の規則性を見いだし、図を使って表現する。	力と圧力 エ　力の性質について、グラフを用いて考察し、表現する。	火山 地震 エ　地震波の伝わり方を分析する。	地層 大地の変動 エ　堆積岩について、環境や年代を推定し、自分の考えを発表する。
音楽	新しい仲間と共に明るい歌声を響かせよう	イメージをもとに構成を工夫して音楽をつくろう ウ　自分のイメージを互いに伝え合い、工夫しながら創作する。	音楽の特徴から情景を想像しよう ウ　音楽の特徴から、そのよさや美しさについて説明する。	曲想やパートの役割を感じ取って、表現　を工夫しよう エ　音楽のよさや美しさについて話し合い、他者の意見から自己の考えを深め、表現を工夫して合唱する。		オ　よりよい　表現を見いだすために意見を出し合う。		詩と音楽の関わりを感じ取ろう　鑑賞「魔王」	日本の民謡の音楽の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう	日本とアジアの楽器の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう カ　楽器の特徴を感じ取り、そのよさや美しさを説明する。		仲間と共に表現豊かに合唱しよう
美術	美術って何だろう ウ　図画工作と美術のつながりについて調査したことをまとめる。	色彩の基本	文字をデザインする ウ　デザインの意味や効果について考え、分かりやすく伝える。	２つのヴィーナス、火焔型土器 ウ　様々なヴィーナス像について、考えたことを伝え合う。		木のぬ　くもりと暮らす、 木製力　トラリーの制作 ウ　木がもつ自然素　材のよさを生かして、日常生活に活用できる　工芸作品を制作する。		風神雷神、自然と人と	美しさの交流 ウ　作品を鑑賞し、そのよさや美しさについて伝え合う。	鉛筆やペンで描く 見て描く楽しみ ア　対象のものがもつ美しさやよさを表現する。	文様、飾りの小宇宙	発想のためのスケッチブック 彫刻家　三沢厚彦 ウ　作品のイメージを深める方法を工夫する。
保健体育	体つくり運動	陸上競技 短距離走、リレー イ　記録を更新できるように改善点を伝え合う。	器械運動　マット運動 ウ　互いの演技を撮影し、模範演技と比較して改善点を伝え合う。	水泳 カ　自らの泳法の課題を見いだし、解決するために粘り強く取り組むとともに、互いに励まし合ったり、教え合ったりする。			球技　バレーボール ウ　互いに協力し、公平な簡易ルールを検討する。	武道　柔道 オ　相手を尊重し、改善点などを伝え合う。	体育理論 ウ　2020 年、東京オリンピックの 100m走の世界記録を予想し、理由も考える。	ダンス イ　学習発表会に向けた計画を立て、改善点を伝え合う。	球技　サッカー	陸上競技　ハードル走 エ　互いのフォームを確認し、助言をし合う。
技術・家庭（技術分野）	技術分野の学習をはじめよう	材料と加工法		生活に役立つ作品を制作しよう イ　白紙に等角図を作図し、木材を使って、制作する。		エ　互いに機　械の使い方や補助の仕方について助言し　合う。		生物を育てよう		木工作品を制作しよう イ　丸太と木版を使って自分の思いを表現し、木工作品を制作する。		
技術・家庭（家庭分野）	食事の役割と中学生に必要な栄養 ア　自分の食生活の課題を見いだし、具体的な解決方法を考える。		食事の計画 ア　自分の食生活の課題を見いだし、中学生の食事摂取基準を満たすための献立を作成する。			食品の選択と　保存と日常食の調理 イ　野菜や魚、肉などして一食分の調理計　の食材を適切に選択し、協働画を立て実践する。		日常食の調理 イ　用途に応じて野菜や魚、肉などの食材を適切に選択し、協働して中学生の一食分の調理計画を立て実践する。		地域の食文化と食生活と環境とのかかわり ア　地域の文化の継承を踏まえた食生活の課題を見いだし、解決策を考える。	エ　日本の食料事情の問題点から、環境に配慮した調理について計画する。	
外国語	英語学習の基礎知識 ア　アルファベットを正しく聞き、発音する。	I Like Soccer. ウ　「Do you ~ ?」を用いて、好きなスポーツなどを尋ねる。	Do You Like Animals? ウ　「How many ~ ?」を用いて、相手の持っているものなどを尋ねる。	Hello, Everyone. ウ　趣味などを尋ねたり応答したりする。 カ　自分の名前などを正しく書き発表する。		Nice to Meet You. カ　代名詞を用いて、初対面同士の紹介などに応答する。	Ms. Allen's Family カ　一般動詞の３単現や、疑問詞 who を含む文の構造を説明する。	Junior High School in the U.S. エ　人称代名詞を用いて、自分の学校について説明する。	New Year ウ　助動詞 can を用いて、相手に質問する。 オ　日本の伝統や文化を説明する。	The Moon and the Stars ウ　現在進行形で表現する。 オ　通話特有の表現で対応する。	A Letter from Australia イ　写真を使ったスピーチをする。 オ　一般動詞の過去形で応答する。	Welcome to Tokyo オ　オリジナルのお弁当を絵で描き、説明する。
特別の教科道徳	自分で決めるって ア　中学校生活での目標とその行動を関連付けて考える。	さよならの学校	ひまわり ウ　困難に立ち向かい、前向きに生きることの大切さを話し合う。	私の話を聞いてね		席を譲ったけれど オ　どのような行動が正しいのかを考える。	なおしもん	銀色のシャープペンシル カ　どのように心の弱さを克服するとよいのかを考える。	栄光の架橋	雨の日の昇降口	カメは自分を知っていた ウ　自己の弱点を克服するために他者の意見を取り入れる。	「確かめよう」
特別活動	中学校の生活	望ましい集団生活 エ　学級の課題や改善点を話し合う。		生活態度を考える		自己の役割を自　覚し、協働的に取り組む エ　それぞれの立場　を尊重し、よりよい集団となるためには何が　必要であるかを考え話し合う。		集団の生活の向上 オ　誰もが快適に過ごせる集団生活の在り方や公共の場の利用の仕方について、考え話し合う。			一年間を振り返ろう ウ　自分たちの取組を発表するとともに、他学年の発表を見聞きし、今後の学習に生かせることを考える。	

第１学年　総合的な学習の時間
単元名「ＳＴＰ（商店街をちょっと楽しくするプロジェクト）」（23　時間）

<各教科等の主な学習活動の関連>
社会：IT産業が発展した理由を、資料を基にまとめる。　数学：表、式、グラフを使って表し、その特徴を考察する。
理科：実験を通して考察し、その結果をまとめる。　音楽：よりよい表現を見いだすために意見を出し合う。
外国語：日本の伝統や文化を説明する。　など

◆　単元を通して育成する資質・能力

知識及び技能	思考力、判断　力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
多摩市の自然、文化、福祉、経済、くらし、政治等の現状と課題から、商店街の活性化が地域を持続可能にしていく手だてになることを理解するとともに、課題を解決するために必要な知識及び技能を身に付ける。	地域の課題を見いだし、解決可能な課題とともに、他者と協働的に情報収集、実態を設定し、その解決に向けた計画を立てる把握を行い、整理・分析し、文章や発話、ICT機器等を活用して表現する。	学級の他の生徒や地域の人々などと協働し、粘り強く学習に取り組むとともに、多摩市のよさを生かし、持続可能なよりよい地域にしようとする態度を育む。

◆　単元の指導計画

	1 課題の設定	2 情報の収集	3 整理・分析	4 実践	5 まとめ・表現
本時の目標	【第１時】自分たちが住む地域の課題 SDGs とのつながりを踏まえた地球規模の課題と地域の商店街の課題を比較・関連付けて考察することを通して、自分の住むまちの課題を見いだす。	【第２～４時】実態把握と計画の立案 地域と近隣との商店街の様子を調査し、比較することを通して、「STP（商店街をちょっと楽しくするプロジェクト）」の計画を考える。	【第５～13 時】計画の見直し 収集した情報や自分の生活経験などと講師の講話とを関連付けて、商店街を活性化する目的を確認するとともに、よりよい計画を考える。	【第 14～18 時】計画の実施 「STP(商店街をちょっと楽しくするプロジェクト)」を実施することを通して、地域社会への参画の意識を高める。	【第 19～23 時】取組の振り返り、発表 取組の成果と課題を捉え、SDGs とのつながりを踏まえて考察することを通して、これから自分ができることを考える。
主体的・対話的で深い学びの視点に立った子供の学びの姿	**単元を通した学習課題：　自分の住むまちを持続可能なよりよいまちにするためには、どのように地域　の商店街を活性化していけばよいのだろうか。**				
	【主体的な学び】の視点 ➡『課題意識をもつ』 地球規模の課題と地域の商店街の課題とは共通点がある。自分が住む地域の商店街には、なぜ人が集まらなくなったのだろうか。	【主体的な学び】の視点 ➡『解決の方法や手順を計画する』 地域の商店街より、近隣の商店街の方が、人が多くて明るい感じがした。 自分が住む地域の商店街も憩いの場を作れば人が集まり、明るくなるのではないだろうか。	【対話的な学び】の視点 ➡『新たな課題に気付く』 商店街を活性化することは、ただ人を集めればよいということではないのではないか。地域の資源や今あるものを活用していくことが大切なのではないだろうか。	【深い学び】の視点 ➡『学びを自覚して、実践する』 地域の資源や今あるものを活用した取組は地域の活性化につながるだろう。このような取組を持続可能な取組にするために、自分には何ができるのだろうか。	【深い学び】の視点 ➡『生活や社会につなげて考える』 今年の成果や課題を後輩につなげることで、この取組が持続され、更に発展してよりよいものになるのではないだろうか。 今後は積極的に地域の行事などにも参加していきたい。

◆　学習活動の展開

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための学習活動

教材のつながり
ア　課題を見いだす学習活動

理科の学習を基に SDGs とのつながりを踏まえた地球規模の課題と自分の住む地域の商店街の課題を比較・関連付けながら、持続可能なよりよいまちにしていくために何ができるのかを考える。　相互性　有限性

理科で学習したプラスチックのごみ問題を基に、SDGs とのつながりを踏まえた地球規模の課題を捉えるための資料の提示

なぜ、こんなに寂しくなってしまったのだろうか。

シャッターが閉まっている店舗が多い。

商店街が寂しい雰囲気になると、地域に住む人が少なくなってしまうのではないだろうか。

現在と過去の地域の商店街を比較する資料

人のつながり
ウ　よりよい計画を考える学習活動

「まちおこしのプロ」として活動する講師の方から地域を活性化する目的や方法、取組の事例等を聞き、地域の商店街を踏まえの新たな課題に気付くとともに、SDGs とのつながりてグループで考えた計画を見直す。　多様性　公平性

まちを活性化するためには、その地域の資源を活用したり、誰に向けた取組なのかを明確にするなどのいくつかのポイントがあります。

多摩市の緑や公園を利用して活性化できないかな。

「まちおこしのプロ」として活動する講師の講話

地域に住む高齢者が商店街に来ることで元気になってもらえるといいな。

商店街を活性化すると、どのようなメリットがあるだろう。

性化する効果な効果か。

能力・態度のつながり
オ　取組を振り返り、自分のこととして捉える学習活動

これまでの取組を振り返って、成果や課題と、SDGs とのつながりを踏まえてグループで考察するとともに、地域の課題を解決するために自分ができることを考える。　連携性　責任性

この取組を後輩たちが継続し、更に発展させていくためには、今年の成果や課題を伝えることが大切だね。

学校の取組から自分の行動につなげる取組についての話合い

実生活・実社会における実践につなげる発表

今まで、地域の課題は他人事でしたが、「STP（商店街をちょっと楽しくするプロジェクト）」を通して、自分も地域の一員として何かできることをやりたいと思いました。

◆　単元の学習活動と関連する主な SDGs

◆　子供の変容

○　アンケートの結果より

「課題を解決するには、いろいろな方法がある。」等の多様性に関わる内容や、「自分の住む地域をよりよくするために力を合わせている。」等の連携性に関わる内容、「自分の住む地域をよりよくするために、責任のある行動をしていると思う。」等の責任性に関する内容については、肯定的な回答が高くなりました。

一方で、公平性に関わる内容については、肯定的な回答が低くなりましたが、これは仲間と目的をもって活動したことで、互いの意見をより尊重したいという意識の高まりによるものだと考えられます。

質問項目	肯定的な回答
課題を解決するには、いろいろな方法があると思う（多様性）。	97% ➡99%
一人一人の気持ちを理解し、行動できる集団になるために行動していると思う（公平性）。	83% ➡79%
自分の住む地域をよりよくするために、力を合わせていると思う（連携性）。	66% ➡78%
自分が住む地域をよりよくするために、責任のある行動をしていると思う（責任性）。	65% ➡72%

◆　成果と課題

○　成果

身近な地域の商店街の課題を見いだし、商店街を活性化させるために考えた計画を実践する学習活動は、子供たちが地域の課題を自分のこととして捉えることで連携性や責任性に関わる資質・能力の育成につながりました。

○　課題

身近な商店街の様子から、地域と多摩市や東京都、更に世界的な課題へと視野を広げられることを意図したものの、その手だてには更なる工夫が必要です。

【実践事例３】　小学校　算数を通した取組（第５学年）

国立市立国立第三小学校

本校は、平成 25・26 年度に東京都教育委員会から「理数フロンティア校」の指定を受け、その取組を発展させ、平成 27 年度以降、算数を中心に問題解決的な学習を通して、筋道を立てて考える力の育成を目指した授業改善に取り組んでいる。

平成 30 年度からは、国立教育政策研究所実践研究協力校として、児童に求められる資質・能力を育むために、「主体的・対話的で深い学び」の「深い学び」につなげるための視点として、児童が学習した内容を基に、新たに追究したい「問い」をもつことに着目し、校内研究を進めている。

本研究を通して、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育むために、問題を見いだし、自立的、協働的に解決しながら学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習活動の充実を図るとともに、SDGs に関わる内容を効果的に取り上げる指導方法について検証を行った。

積極的に自分の考えを発言しようとしている場面

学校の教育目標　○ 思いやりのある子　○ 考え実行する子　○ 健康でたくましい子

◆　「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・　物事を多面的、総合的に考え、問題を見いだし、解決するための知識や技能を身に付ける。 ・　物事を客観的な情報や公平な判断に基づいて考えるための知識や技能を身に付ける。	・　主体的に判断し、見通しをもって課題を解決しようとする力を養う。 ・　他者との協働を通じて、多様な視点から、論理的にコミュニケーションを行う力を養う。	・　学んだことを生活や他の学習に活用しようとする態度を養う。 ・　互いを尊重し合いながら、物事に主体的・協働的に取り組もうとする態度を養う。

＜第５学年＞

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ア　物事を論理的に考えるための知識や技能を身に付ける。 **イ**　物事を客観的な情報や公平な判断に基づいて、複数の視点から捉えるための知識や技能を身に付ける。	**ウ**　自ら問いをもち、主体的に判断し、見通しをもって考える力を養う。 **エ**　他者の考えに関わり、自分の考えを広げたり深めたりして、論理的にコミュニケーションを行う力を養う。	**オ**　学んだことを生活や他の学習に活用しようとする態度を養う。 **カ**　自ら問いをもち、他者と協力してすすんで問題解決に取り組もうとする態度を養う。

＜各教科等の主な学習活動の関連＞ P.28・29 参照

	10 月	11 月	12 月
算数	**ア**　既習内容を生かし、筋道を立てて考える。 **エ**　他者に、自分の考えを筋道を立てて伝える。 **オ**　生活につなげて考える。		
国語	**エ**　文章を読んでまとめた感想を分かりやすく伝える。		**エ**　伝記を読み、自分の生き方について考えたことを伝え合う。
社会			**エ**　被災地に関わった新聞・ラジオの話からメディアの必要性を話し合う。

本校では、算数の問題解決の過程で、自分の考えを広げ深めていくことができるように、必然性のある比較・検討場面を設定してきた。算数で取り組んだ学習活動を基に、教科等横断的な視点から、他の教科等の学習活動との関連を図ることで、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成に取り組んでいる。

単元名「分数のたし算とひき算」の学習の過程　P.30・31 参照

1　問題発見

分母の異なる２つの分数を比較し、筋道を立てて考える。

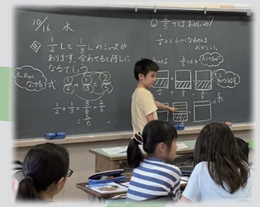
他者との協働

分母の異なる分数の大きさを比べる場合は、どのような方法があるだろうか。

単元を通した学習問題
分母の異なる分数の大小比較や計算は、どのようにしたらできるのだろうか。

2　問題解決、技能の習熟

分母の異なる２つの分数の加法や減法の計算の仕方について、通分を用いて考える。



全体に説明している場面

図で表すと、たし算をしているのに答えがもとの$\frac{1}{2}$より小さくなっていることが分かります。

3　概念の形成

帯分数や小数が混じった加法や減法の計算の仕方について、前時までの学習内容と関連付けて考える。

考えの統合

分数と小数が混じったたし算やひき算でも、分数か小数のどちらか一方にそろえれば、計算することができるのではないだろうか。

4　生活や他の単元への活用

分数を用いた時間の表し方について、時刻や時間の計算と分数の計算とを関連付けて考えたり、SDGs と関連させた応用問題を通して考えたりする。

SDGs と関連させた応用問題を前時までの学習内容を踏まえて検討している場面

今の森林の消失の進み具合は、40分で国立第三小学校270個分です。
今よりも、25分で270個分消失した30年前の方が、倍ぐらい速いです。

単元の学習活動と関連する主な SDGs

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための　各教科等の主な学習活動の一覧（第５学年）

◆　学校の教育目標　　○　思いやりのある子　　○　考え実行する子　　○　健康でたくましい子

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力	・　物事を多面的、総合的に考え、問題を見いだし、解決するための知識や技能を身に付ける。 ・　物事を客観的な情報や公平な判断に基づいて考えるための知識や技能を身に付ける。	・　主体的に判断し、見通しをもって課題を解決しようとする力を養う。 ・　他者との協働を通じて、多様な視点から、論理的にコミュニケーションを行う力を養う。	・　学んだことを生活や他の学習に活用しようとする態度を養う。 ・　互いを尊重し合いながら、物事に主体的・協働的に取り組もうとする態度を養う。
＜第５学年＞	**ア**　物事を論理的に考えるための知識や技能を身に付ける。 **イ**　物事を客観的な情報や公平な判断に基づいて、複数の視点から捉えるための知識や技能を身に付ける。	**ウ**　自ら問いをもち、主体的に判断し、見通しをもって考える力を養う。 **エ**　他者の考えに関わり、自分の考えを広げたり深めたりして、論理的にコミュニケーションを行う力を養う。	**オ**　学んだことを生活や他の学習に活用しようとする態度を養う。 **カ**　自ら問いをもち、他者と協力してすすんで問題解決に取り組もうとする態度を養う。

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
算数	直方体や立方体の体積 **ア** 体積の変化を、具体物や表等を用いて表す。	小数のかけ算・わり算 **オ** 既習事項を活用して、新しい計算の仕方につなげる。		合同な図形 **エ** 図形間の関係に着目し、見いだした性質を、筋道を立てて説明する。		図形の角 **ウ** 四角形の内角の和を求める方法を考える。	分数のたし算とひき算 **ア** 既習内容を生かし、筋道を立てて考える。 **エ** 他者に、自分の考えを筋道を立てて伝える。 **オ** 生活につなげて考える。	比べ方を考えよう(1) **オ** 単位量あたりの考えを使っている生活の場面を見いだす。	四角形と三角形の面積 **ウ** 平行四辺形、三角形などの面積や、およその面積の求め方を考える。	正多角形と円周の長さ **ウ** 円周の長さと直径の長さのきまりを考える。	角柱と円柱 **ウ** 三角柱や円柱の見取り図を基に、展開図を考える。	ごみの減量と二酸化炭素の量 **オ** 二酸化炭素の量に関する問題につなげる。
国語	新聞を読もう **イ** 同じ出来事を伝える記事を比較して印象を話し合う。	生き物は円柱形 **ア** 目的に応じた筆者の論の進め方を考える。	千年の釘にいどむ	次への一歩 活動報告書 **イ** 事実と感想、意見とを区別し、自分の考えが伝わるように書く。		明日をつくるわたしたち **ウ** 日常生活の中から話題を手を説得する文章を書く。 **エ** 文章を読んでまとめた感想を分かりやすく伝える。	決め、集めた材料を分類・関係付け、相	大造じいさんとガン **ア** 大造じいさんの残雪への見方が変わった場面を捉える。	百年後のふるさとを守る **エ** 伝記を読み、自分の生き方について考えたことを伝え合う。	想像力のスイッチを入れよう **イ** 事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に考える。	わらぐつの中の神様 **イ** 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に考える。	
社会	日本は世界のどこにある？ **イ** 国土の位置や構成、領土の範囲などを調べる。	自然条件と人々の暮らし **ア** 特色ある地域の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考える。	米づくりの盛んな地域 **ウ** 生産されているものや生産量の変化、外国との関わりなどについて、問いを設けて調べ、追究する。	水産業の盛んな地域		これからの食料生産 **イ** 食料生産に関わる人々の工夫と自然条件等を関連付けて考える。	自動車づくりにはげむ人々 **ウ** 工業生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要、社会の変化等を関連付けて、工業生産に関わる人々の働きを考える。	工業の今と未来	情報を伝える人々 **エ** 被災地に関わった新聞・ラジオの話からメディアの必要性を話し合う。	情報を生かすわたしたち **オ** 生活の中での情報の生かし方について考える。	自然災害とともに生きる **オ** 減災について、自分ができることを考える。	生活環境を守る人々 **オ** 環境にやさしい取組につなげた計画を考える。
理科	発芽と成長 **カ** 発芽に水が必要かどうかについて確かめる方法を話し合い、協力して観察し考察する。		メダカの誕生 **ウ** 受精卵を観察し、卵が魚らしくなる様子を調べて考察する。	ふりこ **カ** 振り子が一往復する時間は何によって変わるか予想する。		花から実へ **ウ** 受粉の有無による実のでき方の違いを調べる。	流れる水のはたらき **ウ** 地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水のはたらきと土地の変化を調べて考察する。		電池が生み出す力 **エ** 身の回りで電磁石を利用したものについて話し合う。	受けつがれる生命 **ウ** 生命の連続性についてまとめる。	ものの とけ方 **カ** 物が溶ける温度の違いや物を、水に溶かす前後の質量などを調べて考察する。	
音楽	ゆたかな歌声をひびかせよう	オーケストラの響きを味わおう	いろいろな音の響きを味わおう **エ** 旋律の重なり方の違いを生かした歌い方について考え、表現する。			和音の美しさを味わおう **カ** 音量のバランスに気を付けながら合唱する。	け、和音の響きやその移り変わりを感じ	曲想を味わおう **イ** 互いの旋律や全体の響きを聴きながら、曲想を考える。	詩と音楽を味わおう	日本と世界の音楽に親しもう **エ** それぞれの音楽の特徴やよさについて話し合う。	心をこめて表現しよう **カ** 声の重なり合う響きを感じながら、心をこめて合唱する。	
図画工作	糸のこスイスイ **エ** 様々な形を組み合わせた形の面白さについて話し合う。	消してかく **ウ** 自分の思い描いたイメージを形や色を考え絵に表す。	コマコマアニメーション **ア** コマ撮りアニメーションの仕組みを考える。	あんなところでこんなところで **イ** 様々な視点から構成を考える。		使って楽しい焼き物	じっと見つめてみると **ウ** 作品を通して、伝え表したいことを基に、構想する。	立ち上がれ！マイ・ライン **イ** アルミ針金を曲げたり巻いたりして、いろいろな立て方を試す。	ミラクル！ミラーステージ **ウ** イメージに合わせて材料や用具を選択し、作品に表す。	物語から広がる世界 **イ** 自分の思いが伝わるための大きさや配置などを考える。	伝え合いたい思いや気持ち **ウ** 集めた材料を、五感を使って鑑賞する。	刷り重ねて表そう
家庭	ガイダンス **エ** ２年間の学習の課題について話し合う。	だんらんのための仕事からはじめよう **オ** 学んだことを生かし、団らんの用意をする。	ゆでる調理をしよう	手ぬいにトライ！		なぜ食べるのか考えよう **ウ** おいしいご飯の作り方を調べて、調理計画を立て、実践する。	めざそう買い物名人 **エ** 生活で使う身近な物や金銭の使い方を見直し、お金の計画的な使い方について自分の考えを伝える。		身の回りをきれいにしよう **ウ** 整理・整頓の計画を立て実践する。	ミシンにトライ！手作りで楽しい生活		作品を楽しく使おう **オ** 製作した作品を、家族との生活に活用する。
体育	リレー **カ** めあて達成のために励まし合ったり教え合ったりしながら運動する。	ネット型ゲーム **カ** ルールを守り助け合って運動する。	鉄棒運動・水泳運動 **ウ** 自分の能力に適した課題をもち、学習計画を立てる。			表現運動 **カ** 仲間と協力し、励まし合ったり教え合ったりしながら運動する。	ベースボール型ゲーム **カ** チームの特徴に応じた作戦を立てる。	ハードル走・走り幅跳び・マット運動・跳び箱運動 **ウ** 自分の能力に適した課題をもち、学習計画を立てる。			けがの防止 **オ** 生活におけるけがの予防に生かす。	ゴール型ゲーム **カ** 互いに協力し、役割を分担して、練習やゲームをする。
外国語活動	Hello, everyone. **イ** 自己紹介を聞いて、具体的な情報を聞き取る。	When is your birthday? **エ** 好みや欲しいもの、誕生日等について伝え合う。	What do you have on Monday? **カ** ある職業に就くためにふさわしいと思われる時間割を提案し、伝え合う。	What time do you get up? **エ** 自分の一日の生活について伝え合う。		She can run fast. He can jump high. **エ** 自分や他者について、できるを、考えや気持ちも含めて伝えこと、できないこと合う。	I want to go to Italy. **イ** ポスターやパンフレットなどにある視覚情報を伴う語句を読む。		Where is the treasure? **エ** 道案内で場所を尋ねたり答えたりする。	What would you like? **エ** 丁寧な言い方で料理の注文をしたり、値段を尋ねたり答えたりする。	Who is your hero? **ウ** 自分が憧れたり尊敬したりする人について紹介する。	
特別の教科 道徳	「ありがとう」を上手に **オ** 自分の生活につなげて考える。	駅前広場は誰のもの **エ** 登場人物になりきって、気持ちを伝え合う。	転校生がやってきた **エ** どんな気持ちから、みんなに話しかけたか考える。	かれてしまったヒマワリ **カ** 自分の役割や仕事について考える。		お父さんのおべんとう **オ** 自分の生活につなげて考える。	折り紙大使 **エ** 国際理解や親善を深めるために、外国の人々に日本のどんな文化を伝えて交流したいか話し合う。	流行おくれ **エ** 節度ある生活や、物を大切にすることのよさについて話し合う。	正月料理 **エ** 物事や行事などに込められた日本人の心について話し合う。	親から子へ、そして孫へと **エ** 自分の地域のよさについて話し合う。	同じ空の下で **エ** 飢餓に苦しむ子供たちがたくさんいるという事実から、考えたことを話し合う。	イルカの海を守ろう **オ** 身近な自然を守ることにつなげて考える。
特別活動	学級目標を決めよう **エ** よりよい学級にするための目標を話し合う。	三小こども市のお店を決めよう **エ** 他者の意見を取り入れながら、協力して実践する。	食事の大切さを考えよう **ウ** 健康によい食事のとり方について、具体的な目標を立てて取り組む。	移動教室について **カ** 必要な仕事や役割を決め、協力して実践する。		地震と安全 **イ** 様々な資料から、災害時の安全確保について考える。	本を読もう **カ** 学校図書館等を活用して、本を読むことの大切さや面白さについて話し合う。	学校をきれいにしよう **カ** 清掃の仕方を見直し、話し合う。	２学期の振り返り **オ** ２学期の成果を３学期につなげる。	風邪に負けない体をつくろう **イ** 資料を見て、風邪の予防の仕方について話し合う。	六年生を送る会に向けて **カ** 六年生のために、自分たちにできることを話し合う。	春休みの過ごし方 **ウ** 最高学年になることに希望をもち、春休みの過ごし方を考える。
総合的な学習の時間	食について考えよう **イ** 身近なところやニュースなどから、食の問題点を出し合う。 **ウ** 課題を決め、調べる計画を立てる。		八ヶ岳のくらし **ウ** 八ヶ岳の特質に応じたテーマを基に課題を設定し、調べる計画を立てる。			パラリンピックスポーツ体験をしようと **エ** パラリンピックをテレビなどで見た感想を話し合う。	明日をつくる私たち **カ** 自分たちの暮らしをよりよくするために、できることを話し合う。	オリンピックの精神を伝えよう **ウ** オリンピックについて、自分が立てた計画に従って調べ学習を行い、まとめる。		三小問題解決プロジェクト **ウ** 学校全体に関わる生活面の問題などについて調べたいことを考える。 **エ** 調べて感じたこと・考えたことを、根拠を踏まえて発表する。		

研究の内容
実践事例
小学校 総合的な学習の時間の取組
中学校 総合的な学習の時間の取組
小学校 算数を通した取組
小学校 プログラミング教育を生かした取組

第５学年 算数
単元名「分数のたし算、ひき算」（10 時間）

<各教科等の主な学習活動の関連>
国語：文章を読んでまとめた感想を分かりやすく伝える。
社会：被災地に関わった新聞・ラジオの話からメディアの必要性を話し合う。
総合的な学習の時間：調べて感じたこと・考えたことを、根拠を踏まえて発表する。　など

◆　単元を通して育成する資質・能力

知識及び技能	思考力、　判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを理解し、分数の相等及び大小について知り、大小を比べることができるとともに、異分母の分数の加法及び減法の計算ができる。	数を構成する単位に着目して数の大小加法及び減法について、分母と分子を用し、通分を用いた計算の仕方を考える。	を考察し判断するとともに、異分母の分数のいて表現された分数の意味や大きさに着目	数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討し、よりよいものを求めて粘り強く考えるとともに、分母をそろえて考えることのよさを生活や他の学習へ活用しようとする。

◆　単元の指導計画

	1 問題発見	2 問題解決、技能の習熟	3 概念の形成	4 生活や他の単元への活用
本時の目標	【第１時】異分母の分数 分母の異なる２つの分数を比較する方法を、既習内容を生かし、筋道を立てて考えることを通して、大きさの等しい分数の表し方とその性質について理解する。	【第２～４時】異分母の分数の大小関係 分母の異なる２つの分数の大小関係について、図などを用いて考えることを通して、約分や通分の意味とその方法を理解し、異分母の分数の大小比較ができる。	【第５・６時】異分母の分数の加法及び減法 分母の異なる２つの分数の加法及び減法の計算の仕方について、通分を用いて考えることを通して、計算の仕方を理解しその計算ができる。	【第７～９時】様々な分数の加法及び減法 帯分数や小数が混じった加法及び減法の計算の仕方について、前時までの学習内容と関連付けて考えることを通して、計算の仕方を理解しその計算ができる。	【第 10 時】時間と分数 分数を用いた時間の表し方について、時刻や時間の計算と関連付けて考えることを通して、生活や他の単元に活用しようとする。
主体的・対話的で深い学びの視点に立った子供の学びの姿	【主体的な学び】の視点 ➡『既習内容を生かす』 $\frac{1}{4}$ と $\frac{4}{16}$ は、$\frac{1}{4}$ の分子、分母の数をそれぞれ４倍すると $\frac{4}{16}$ になるので、大きさの等しい分数と言えるのではないだろうか。	単元を通した学習問題：　分母の異なる分数の大小比較や計算は、ど　のようにしたらできるのだろうか。 【主体的な学び】の視点 ➡『問題意識をもつ』 分母の異なる分数の大きさを比べる場合は、分母を同じ数にそろえると、比べることができるのではないだろうか。 分母を同じ数にそろえるには、どのような方法があるのだろうか。	【対話的な学び】の視点 ➡『考えを吟味・検討する』 図を用いて考えるときは、全体の大きさをそろえて、図をかくことが大切なのではないだろうか。	【深い学び】の視点 ➡『知識を相互に関連付けて考える』 分数と小数が混じったたし算やひき算の計算をする場合は、分数か小数のどちらか一方にそろえるとよいのではないだろうか。	【深い学び】の視点 ➡『生活や社会につなげて考える』 時間を分数で表す場合は、何等分したいくつ分と考えると、現在と 30 年前の森林の消失の違いを比べることができるのではないだろうか。 他の場面でも、分数を活用してみたい。

◆　学習活動の展開

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための学習活動

教材のつながり
ア　既習内容を生かし、筋道を立てて考える学習活動
第４学年までに学習した内容を基に、分子や分母の数に着目し、分母の異なる２つの分数の比べ方を考える。
相互性　公平性

〔第４学年までに学習した内容を踏まえた発言〕

分母の数がそろっている場合は、分子の数を見て、分数の大きさを比べました。

分子の数がそろっている場合は、分母の数を見て、分数の大きさを比べました。

分母の数がちがっても、$\frac{1}{2}$ と $\frac{2}{4}$、$\frac{3}{6}$ など、大きさの等しい分数がたくさんある。

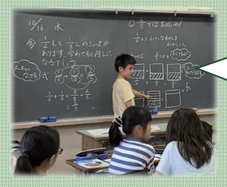
既習内容を踏まえ、分数の大小関係を比較する。

人のつながり
エ　他者に、自分の考えを筋道を立てて伝える学　習活動
分母の異なる２つの分数のたし算の方法を小数や図なて考え、互いに伝え合ったり全体に説明したりする。　どを用い
多様性　連携性

〔小数や図を用いた自分の考えを、友達や全体に説明　する場面〕

$\frac{1}{2}$ を小数で表すと、0.5 になる。

$\frac{2}{5}$ で表　は、小数　になな　すと、0.4　る。



図で表すと、たし算をし　ているのに答えがもとの $\frac{1}{2}$ より小　さくなっていることが分かります。

互いに説明し合ったり、全員に説明したり　する等、他者に自分の考えを、筋道を立てて伝える。

能力・態度のつながり
オ　生活につなげて考える学習活動
SDGs と関連させた応用問題を通して、分数を用いた時間の表し方を考える。
相互性　有限性

今世界では、40 分間に国立第三小学校の 270 個分の森林が消失しています。30 年前は、$\frac{5}{12}$ 時間に国立第三小学校の 270 個分の森林が消失していました。
今と 30 年前では、どちらがより多く、森林が消失していますか。

〔SDGs と関連させた応用問題を
前時までの学習内容を踏まえて検討している発言や振り返り〕

今の森林の消失の進み具合は、40分で国立第三小学校270個分です。
今よりも、25分で270個分消失した30年前の方が、倍ぐらい速いです。

40 分などの時間も、分数で表すことができたことで、森林の面積の消失の進み具合が思っていたより速いことが分かった。
森林保護がなされているようだが、自分にもできることはないだろうか。

◆　単元の学習活動と関連する主な SDGs

◆　子供の変容

○　アンケート結果より
「多様性」「相互性」「公平性」「連携性」の全てにおいて、肯定的な回答の高まりが見られました。これは、他者に筋道を立てて伝える学習活動等の設定に効果があったと考えられます。

質問項目	肯定的な回答
考えを伝えるには、いろいろな方法があると思う（多様性）。	97% ➡100%
学んだことを関わり合わせて考えをまとめることは大切だと思う（相互性）。	99% ➡100%
一人一人の意見を大切にして話合いに参加していると思う（公平性）。	95% ➡ 96%
他の人と力を合わせて課題を解決していると思う（連携性）。	89% ➡ 95%

◆　成果と課題

○　成果
様々な解き方を比較・検討し、筋道を立てて考えたり、伝えたりするための学習活動を、単元を通して取り入れたことで、友達の考えを認め、自分の考えと比較しながら問題解決に取り組む姿が見られました。
児童の視野を広げるために、第10時で SDGs に関連した応用問題を設定しました。児童にとって身近な学校を基に考えることができるようにしたことで、地球規模の課題に興味・関心をもって取り組む姿が見られました。

○　課題
SDGs の内容については、地球規模の課題を児童がより身近に感じるようにするために、総合的な学習の時間などで触れた上で扱う等の工夫が必要です。

【実践事例４】　小学校　プログラミング教育を生かした取組　（第５学年）

国分寺市立第六小学校

本校は、平成 30・31 年度の東京都教育委員会プログラミング教育推進校として、「児童の論理的思考力を育成する指導方法の工夫」を研究主題とし、課題設定や教材・教具などの工夫を視点に、研究を推進している。
平成 30 年度は、各学年で実践授業を行い、プログラミング教育の年間指導計画及び各教科等におけるプログラミング教育の単元一覧を作成した。

今年度は、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための学習活動として、プログラミング教育を生かした学習展開や、SDGs を意識した学習活動等を取り入れるなどした単元（題材）のまとまりを通した授業改善に取り組んだ。

課題解決に向けたプログラミングの体験

学校の教育目標　　○　仲よく助け合う子　○　よく考える子　○　体をきたえる子

◆　「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・　多様な情報を結び付けて物事の背景等を多面的に捉えるための知識や技能を身に付ける。 ・　言葉の働きや役割などを捉え、筋道立てて論理的に問題を解決するための知識や技能を身に付ける。	・　自分の思いや考えを表現して協働するとともに、互いのよさを認め合いながら考える力を養う。 ・　教科等の学習と身近な生活とを関連付けて捉え、よりよい解決方法を検討して探究的に学ぶ力を養う。	・　互いの考えや思いを尊重し合い、豊かな社会をつくろうとする態度を養う。 ・　生活の中から問題を見いだし、見通しをもって主体的に解決しようとする態度を養う。

＜第５学年＞

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ア　様々な情報を選択したり、複数の情報を結び付けたりする知識や技能を身に付ける。 **イ**　課題を見いだし、根拠をもって課題を解決するための知識や技能を身に付ける。	**ウ**　自分の思いや考えを表現し、互いのよさを認め合いながら考える力を養う。 **エ**　多様な解決方法を試し、筋道立てて探究することで、より適切に自分の考えを表現する力を養う。	**オ**　互いの考えや思いを尊重し合い、人との関わりを大切にして主体的に学ぼうとする態度を養う。 **カ**　目標を設定し、見通しをもって手順を考え、粘り強く解決しようとする態度を養う。

＜各教科等の主な学習活動の関連＞ P.34・35 参照

	9月	10月	11月
総合的な学習の時間	**イ**　自分の生活と様々な人とのつながりに気付き、身近な生活から課題を見いだす。 **エ**　様々な体験を通して、よりよい解決策を追究し、論理的に表現する。 **オ**　相手意識をもって課題を追究し、自分の考えを発表する。		
国語	**エ**　言葉の使い方や影響に着目して、相手を説得するための文章を書く。		
社会	**イ**　食料生産に関わる課題について、資料を基に議論する。		**エ**　工業製品と国民生活、生産の工夫や努力、貿易や運輸について、それぞれ調べたことをまとめる。

本単元では、探究する過程にプログラミングの体験を位置付けることで、児童が体験を通して理解することを重視した。一単位時間の学習の振り返りでは、SDGs のアイコンを提示し、その時間の学習と、SDGs との関連やその理由を考えることを通して「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成を図っている。

単元名「共に生きる」の学習の過程　P.36・37 参照

単元の学習活動と関連する主な SDGs

1　課題の設定

誰もがよりよい生活を送るために SDG s とのつながりを踏まえて、身近な人々との関わり方について課題を見いだす。

社会の学習内容と関連させた資料の提示

みんながよりよい生活を続けられるために、自分にできることは何だろうか。

単元を通した学習課題
共に生きるために、自分には何ができるだろうか。

2　情報の収集

人々の現状や課題等に関する情報を収集して、一人一人が探究する課題を考える。

信用できる情報を収集するためには、他にどのような方法があるのだろうか。

図書資料の活用

使う人のことを考えると、他にはどのような課題があるのだろうか。

障害者アスリートとの交流

柔らかい地面の上でも、楽に押してあげられる方法はないのだろうか。

車椅子の体験

プログラムすれば、誰もが楽に機械を動かせるのではないだろうか。

プログラミングの体験

3　整理・分析

調べた情報を可視化して整理し、自分の考えをまとめる。

提案に使うデータの整理

その人にとっての便利さや、安全、安心についてまとめればよいのではないか。

よりよい生活が続けられるように、助け合うことが、大切だと思います。

4　まとめ・表現

解決したことを分かりやすく表現し、今後、自分がどのように行動するべきか SDG s と関連させて考える。

課題に関わる発表と協議

困っている人がいたら声をかけるなど、自分ができることをしていきたいです。

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための　各教科等の主な学習活動の一覧（第５学年）

◆ 学校の教育目標　　○ 仲よく助け合う子　○ よく考える子　○ 体をきたえる子

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	・ 多様な情報を結び付けて物事の背景等を多面的に捉えるための知識や技能を身に付ける。 ・ 言葉の働きや役割などを捉え、筋道立てて論理的に問題を解決するための知識や技能を身に付ける。	・ 自分の思いや　考えを表現して協働するとともに、互いのよさを認め合力を養う。 いながら考える ・ 教科等の学習　と身近な生活とを関連付けて捉え、よりよい解決方法を検討して探究的　に学ぶ力を養う。	・ 互いの考えや思いを尊重し合い、豊かな社会をつくろうとする態度を養う。 ・ 生活の中から問題を見いだし、見通しをもって主体的に解決しようとする態度を養う。
＜第５学年＞	**ア** 様々な情報を選択したり、複数の情報を結び付けたりする知識や技能を身に付ける。 **イ** 課題を見いだし、根拠をもって課題を解決するための知識や技能を身に付ける。	**ウ** 自分の思いや　考えを表現し、互いのよさを認め合いながら考える力を養う。 **エ** 多様な解決方　法を試し、筋道立てて探究することで、より適切に自分の考えを表現する　力を養う。	**オ** 互いの考えや思いを尊重し合い、人との関わりを大切にして主体的に学ぼうとする態度を養う。 **カ** 目標を設定し、見通しをもって手順を考え、粘り強く解決しようとする態度を養う。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な学習の時間		稲を育てよう　バケツ稲を育てよう（11月まで） **ア** 作物を生産する苦労や収穫の喜びを味わいながら稲を栽培する。 **ウ** 地場産物や食文化を支える人々と関わり、健康な生活の仕方を考える。 **カ** 収穫までの目標を設定し、栽培の計画や役割分担を考えて育てる。				共に生きる **イ** 自分の生活と様　々な人とのつながりに気付き、身近な生活から課題を見いだす。 **エ・オ** 様々な体験を通　して、よりよい解決策を追究し、論理的に表現する。 相手意識をもっ　て課題を追究し、自分の考えを発表する。				世界の国博士になろう **ア** 様々な情報を結び付けて、国調べを行う。 **エ・オ** 国調べを通して分かったことや、伝えたいことを分かりやすく表現する。 相手の文化や伝統を尊重して外国人と関わり、自ら設定した課題を追究する。		
国語	なまえつけてよ 新聞を読もう	生き物は円柱形 **イ** 本文を引用し、主旨を要約して書く。	きいて、きいて、きいてみよう **ウ** 自分の意見と比べて考えたことを話す。	次への一歩　活動報告書 **イ** 情報を取捨選択して報告書を書く。		明日をつくる私たち **エ** 言葉の使い方や影響　に着目して、相手を説得するための文章を書く。	大造じいさんとガン 天気を予想する **ア** 考えに合った資料を収集する。	グラフや表を用いて書こう **カ** 学習計画を立て、グラフ等を用いて意見を書く。	百年後のふるさとを守る **ウ** 経験等を照らし合わせて話し合う。	想像力のスイッチを入れよう **エ** 事例等の結び付きを捉え、考えをまとめる。	推薦します わらぐつの中の神様	一枚の写真から **エ** 目的や効果を考えて文章を組み立てる。
社会	わたしたちのくらしと国土 **ア** 国土の構成や領土の範囲等を大まかに理解し、地図帳等の資料で調べたことを白地図にまとめる。		くらしを支える人々 **エ** 我が国の食料生産やそれに関わる人々の努力、工夫を資料から調べ、説明したり、議論したりする。			食糧生産を支　える人々 **イ** 食料生産に関わ　る課題について、資料を基に議論す　る。	工業を支える人々 **エ** 工業製品と国民生活、生産の工夫や努力、貿易や運輸について、それぞれ調べたことをまとめる。		くらしを支える情報 **ア** ニュース番組の映像等の資料や、大量の情報、情報通信技術の活用について、必要な情報を関係付けて図表などにまとめる。		国土の自然とともに生きる **エ** 自然条件との関連で国土の自然災害の状況を捉え、発生の位置や時期等を調べる。	
算数	小数と整数 図形の合同	単位量当たりの大きさ **エ** 比べ方や表し方を日常生活で生かす方法を考える。	小数のかけ算	図形の角 **エ** 意味や性質等を捉え、解決の方法を考える。 小数のわり算		倍数と約数 **イ** 整数を類別する方を考察し、話し合　う。	分数のたし算とひき算 分数と小数・整数	体積 速さ	図形の面積 **エ** 倍積変形等の考えを用いて、面積の求め方を話し合う。	比例 **エ** 数量の関係について考えたことを話し合う。	正多角形と円	割合とグラフ **エ** 割合を示すグラフに表したり読み取ったりする。 立体
理科	天気の変化 **ア** 気象情報を基に天気の変わり方を考え表現する。	メダカの誕生　人の誕生 **イ** 予想や仮説を基に、動物の成長の条件を調べる。	植物の発芽　植物の生長 **イ** 予想や仮説を基に、植物の発芽等に関わる条件を調べる。			植物の実や種子のでき　方 **ア** 変える条件と変えない条件を区別して実　験する。	天気と情報 **ア** 天気の変化を予想し、災害に対する備えや情報の活用について話し合う。	流れる水の働き **エ** 予想や仮説を基に、実験を計画する。	電磁石の性質 **エ** 磁力の強さの実験結果を適切に処理し、考察する。	ものの溶け方 **イ** 物が水に溶ける実験の結果を考察する。		ふりこの動き **エ** 振り子が１往復する時間を変化させる条件を調べる。
音楽	ゆたかな歌声をひびかせよう **ウ** 曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。	いろいろな音のひびきを味わおう **ウ** 曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、いくつかの音の響きを合わせて演奏する。				和音の美しさを　味わおう **オ** 和音の移り変わり　りを感じ、音楽の仕組みを生かして演奏する。	曲想を味わおう **ウ** 曲想の変化を感じ取って歌ったり、曲想を生かして演奏したりする。	詩と音楽を味わおう **ウ** 詩と音楽の結び付きに気を付けて歌曲を味わい、声を合わせて歌う。	日本と世界の音楽に親しもう **オ** 和楽器の響きと旋律の美しさを味わい、旋律をつくる。	心を込めて表現しよう **エ** 曲の盛り上がりが伝わるように演奏の仕方を話し合い、歌詞の表す気持ちを捉える。		
図画工作	墨の歌 **ア** 筆のタッチや墨の濃さを生かして表す。	立てよう！六小モニュメント **エ** アルミ線の特徴を生かしながら、形を工夫して表す。 ココロの窓	ガラス de スヤキ **オ** 粘土の手触りを楽しみながら、形を工夫して表す。	発見！水のステキ **ア** 水の特徴を味わい、表したいことを見付ける。		ジャングルの生命 **エ** 色合いや筆のタ　ッチを考えながら表　す。	わくわくマイ楽器 **エ** 表現方法を柔軟に組み合わせて表す。	音を感じて **エ** 聴いた音楽のイメージを色や形で表す。	光の形 **イ** 素材等の特徴を生かして表す。	ワンダフルシューズ **ア** 紙粘土の様々な特徴を生かして立体に表す。	刷り重ねて表そう **ウ** 色の重ね方を考えて表す。	暗闇アルミ **ウ** 暗い空間とアルミホイルの特徴を生かして発想を広げる。
家庭	我が家にズームイン! **イ** 家庭生活への関わり方の課題を話し合う。	おいしい楽しい調理の力 **ア** 調理に関する手順や目的について話し合い、材料に応じた調理について調べる。		ひと針に心をこめて **イ** 自分が製作して生活で活用した物の改善点や工夫を考える。		ご飯と味噌汁 **イ** 家庭生活に生か　す調理の仕方について工夫　し計画を立てる。	めぎそう買い物名人 **エ** 生活で使う身近な物や金銭の使い方を見直し、計画的な使い方を考え工夫する。		物を生かして住みやすく **エ** 身の回りの課題を見付け、環境に配慮して整理・整頓や清掃の仕方の工夫を考える。	ミシンにトライ！手作りで楽しい生活 **カ** 布を用いて作品を仕上げるための手順や縫い方の課題を見いだし、製作計画を作成する。		
体育	器械運動　マット運動 **イ** 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫する。 陸上運動　短距離走・リレー **ウ** 自分やチームの記録を伸ばすために励まし合ったり、教え合ったりする。	水泳運動 ボール運動　ラケットベースボール **ウ** 様々な方法から、自己やグループの能力に適したものを選び、チームの特徴に応じた作戦を立てる。				表現運動 **オ** 協力し、互いのよ　さを認め合って踊　る。	陸上運動　走り幅跳び 保健　心の健康 **ウ** 不安や悩みに直面した時の適切な対処方法を考える。	ボール運動　バスケットボール **エ** ボールを持たない時のよい動きを考え、意見を伝える。	体力を高める運動（持久走、なわとび）	ボール運動　サッカー **エ** 自己やチームの特徴に応じた作戦を選び、解決のために考えを伝える。		
外国語活動	Hello, everyone. **オ** 他者に配慮しながら、簡単な自己紹介をする。	When is your birthday? **オ** 誕生日やほしいもの、好きなものなどについて話し合う。	What do you have on Monday? **ウ** 英語を聞いておおよその内容を捉え、時間割について伝え合う。			What time do you get up? **ウ** 自分の一日の　生活について伝え合　う。	She can run fast. He can jump high. **オ** 自分ができることやできないことなどを紹介し合う。	I want to go to Italy. **ア** ポスターやパンフレットの情報に伴う語句を読む。	Where is the treasure? **ウ** 道案内で、場所を尋ねたり答えたりする。	What would you like? **オ** 丁寧に注文や値段を尋ねたり、答えたりする。		Who is your hero? **オ** 自分が憧れたり、尊敬したりする人について紹介し合う。
特別の教科道徳	見えた答案 **ウ** 誠実に行動することのよさを見いだす。	駅前広場はだれのもの **エ** 決まりや約束は何のためにあるのか話し合う。	ノンステップバスでのできごと **ウ** 思いやりのある行動について考え話し合う。	おばあちゃんが残したもの **オ** 自分の生き方について話し合う。		ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ **ア** 物事を探究することの大切さについて考える。	名医、順庵 **オ** 広い心で人と接するために必要なことを話し合う。	心のレシーブ **エ** 男女で分かり合えることのよさを話し合う。	くずれ落ちたダンボール箱 **ウ** 話し合って、自分の考えを広げる。	感動したこと、それがぼくの作品 **カ** これまでを振り返り、今後の生き方を考える。	同じ空の下で **ウ** 国際親善についての考えを話し合う。	バトンをつなげ **カ** 今後の生活について話し合う。
特別活動	遠足を成功させよう **エ** マナーと自分の生活を関連付けて考える。	感謝の気持ちを伝えよう **ウ** 気持ちの伝え方を考える。	係の報告会をしよう **ウ** 係活動を見直し、改善する。	教室をきれいにしよう **ウ** 環境を整える意味と清掃の仕方を話し合う。		運動会のめあてを決めよう **カ** 学級の目標を決　めるために話し合う。	係のポスターをつくろう **エ** 役割やよさについて話し合う。	連合音楽会を成功させよう **イ** 自分たちにできることを話し合う。	五中生にお礼の手紙を書こう **オ** 感謝の気持ちの伝え方について話し合う。	ネパール支援活動をしよう **カ** 自分事に置き換えて考え、活動に生かす。	６年生の卒業を祝おう **オ** 感謝の気持ちの伝え方について話し合う。	思い出集会をしよう **オ** １年間を振り返り、よさを認め合う。

第５学年　総合的な学習の時間
単元名「共に生きる」（15 時間）

<各教科等の主な学習活動の関連>
国語：情報を取捨選択して報告書を書く。
　　言葉の使い方や影響に着目して、相手を説得するための文章を書く。
社会：食料生産に関わる課題について、資料を基に議論する。
算数：整数を類別する仕方を考察し、話し合う。
理科：予想や仮説を基に、実験を計画する。
など

◆　単元を通して育成する資質・能力

知識及び技能	思考力、判断　力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
身近な人々とよりよく関わるための課題を知り、科学技術の有効性や可能性とつなげて「共に生きる」ことの意義を理解するとともに、課題の解決に必要な考え方や方法についての知識や技能を身に付ける。	人々の思いや願い、工夫や努力などからした内容等を整理・分析して解決の方法を分の考えを順序立てて表現する。　課題を設定し、協働して調べたことや体験考えるとともに、根拠を基に明確にした自	「共に生きる」ことについて自ら課題を追究し、自己の生き方を考えるとともに、相手意識を高めてよりよく他者と関わり、実生活の問題の解決に取り組もうとする態度を育む。

◆　単元の指導計画

	1 課題の設定	2 情報の収集	3 整理・分析	4 まとめ・表現
本時の目標	【第１・２時】学習課題の設定 人々の生活における課題と地球規模の課題との共通点や相違点を比較・関連付けて考えることを通して、身近な人々と関わるための学習課題を設定する。	【第 3～6 時】気付きを基にした課題の設定 車椅子体験等の活動と人々の思いや願いとを関連付けて考えることを通して、よりよい生活に向けた一人一人の課題を見いだす。	【第 7～9 時】必要な情報の収集、解決策の修正 必要な情報から、より効率的・効果的な課題解決の方法を選択し、助言し合うことを通して、解決策を修正したり、必要な情報を収集したりする。	【第 10～13 時】概念の形成 調べた情報を事実や思い等に整理し、因果関係等を構造的に捉え、関連付けることを通して、課題解決に関する根拠を明確にして自分の考えをまとめる。	【第 14～15 時】提案の発表 「共に生きる」ことに関する考えの共通点や相違点を捉えることを通して、自分の生活を見直し、共に生きるために自分にできることを考える。
主体的・対話的で深い学びの視点に立った子供の学びの姿	**単元を通した学習課題：　共に生きるために、自分には何ができるだろうか。**			
	【主体的な学び】の視点 ➡『課題意識をもつ』 高齢者の割合が高くなり、科学技術が急速に発展する社会では、人々が共に生きるために、どのようなことを解決しなければならないのだろうか。	【主体的な学び】の視点 ➡『自己の課題をもつ』 地域で生活している人々のために自分ができることは、どのようなことだろうか。	【対話的な学び】の視点 ➡『新たな課題に気付く』 道具や設備を充実させるだけでなく、自分たちの行動や考え方を変えることで、身近な人々のためにできることはないだろうか。	【深い学び】の視点 ➡『知識を相互に関連付けて考える』 人々の思いや願いを踏まえ、体験した内容や調べた内容を関連付けて、自分なりの提案を伝えていきたい。	【深い学び】の視点 ➡『生活や社会につなげて考える』 今後は、様々な立場に立って多様な見方で課題を捉えたり、考えたりして解決の方法を工夫していきたい。

◆　学習活動の展開

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための学習活動

教材のつながり
イ　身近な生活から課題を見いだす学習活動

社会の学習内容を基に、誰もがよりよい生活を送るために SDGs とのつながりを踏まえて、身近な人々との関わり方について課題を見いだす。

多様性　有限性

機械やＡＩは、生活をよりよくしてくれそうだけれど、人の力でできることもたくさんあるのではないだろうか。

社会の既習内容を基に、SDG s とのつながりを踏まえ、身近な人々との関わりについて課題を捉える資料の提示

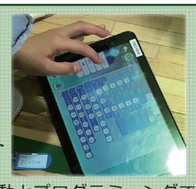
今は昔より、様々な課題が解決されているけれど、この先、働く人が減っていく世の中では、どのように解決していくのだろうか。

人のつながり
エ　よりよい解決策を追究する学習活動

SDGs とのつながりを踏まえて、様々な人との関わりを生かし地域で生活している人々の現状や課題等に関する情報を収集し、一人一人が探究する課題を考える。

公平性　連携性

プログラミングした機械で、全ての人の生活がよりよくなるのだろうか。



手動とプログラミング操作する体験を比較した話合い

気付きや感想を話し合いながら行う車椅子の体験

介助される側もする側にも役に立つ方法でなければ、よりよい生活にはつながらないのではないだろうか。

障害者アスリートからの講話と交流

自分の当たり前がみんなの当たり前のように思っていると、気付けないことが多いのではないだろうか。

能力・態度のつながり
オ　生活につなげた自分の考えを発表する学習活動

人々の思いや願いを踏まえて解決したことを分かりやすく表現し、今後、自分がどのように行動するべきか SDGs と関連させて考える。

相互性　責任性

〔実生活における「共に生きることとは何か」についての課題に関わる発表〕

追究した課題をわかりやすく伝えるためのプレゼンテーションソフトを活用した発表

車椅子の方が、段差などで困っていたら、声をかけるなど自分ができることをしていきたいです。

友達の発表を聞いて、様々な視点から解決策を考えられると思いました。
よりよい生活が続けられるように、助け合うことが、大切だと思います。

追究した課題について感想を伝え合う場面

◆　単元の学習活動と関連する主な SDGs

◆　子供の変容

○　アンケートの結果より

相互性、連携性については、全ての項目で肯定的な回答が高くなりました。一方で、責任性に関わる内容のうち、「自分が住む地域をよりよくするために、責任のある行動をしていると思う。」という質問は、肯定的な回答が低くなりました。これは自分が住む地域をよりよくするために、責任のある行動をする必要がある等の意識が高まったことによるものと考えられます。

質問項目	肯定的な回答
課題を解決するには、いろいろな方法があると思う（多様性）。	96% ➡100%
一人一人の意見を大切にして話し合いに参加していると思う（公平性）。	90% ➡ 96%
よりよい考えにまとめるためには、互いの意見を関わり合わせることが大切だと思う（相互性）。	96% ➡100%
他の人と力を合わせて課題を解決していると思う（連携性）。	90% ➡ 93%

◆　成果と課題

○　成果

身近な人々との関わりや生活の中から「共に生きる」ための課題を見いだし、体験的に視野を広げながら自分にできることを発表する学習活動は、子供たちが「共に生きる」ことを自分のこととして捉え、多様性や相互性、連携性に関わる資質・能力の育成につながりました。

○　課題

児童にとって、身近な人から世界の人々へと視野を広げられることを意図したものの、児童がより具体的に考えられるようにするためには、映像教材や体験的な活動を探究の過程に位置付ける等の工夫が必要です。

研究のまとめ

本研究では、これからの時代に求められる学校教育の創造を目指し、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を明確にするための手だてを明らかにしました。そして、その資質・能力を育成するために、教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、その効果を検証しました。

本研究に携わった四校の授業実践から検証した結果、これからの時代に求められる学校教育を創造していく上で、次の三つのポイントが大切であることが明らかになりました。

1　持続可能な社会の実現に向けて、子供たちに必要な資質・能力を明確に設定すること。

これまでも多くの学校が、学校の教育目標の実現に向けて、子供や学校、地域の実態等を踏まえて学校教育全体で育成する資質・能力を設定していますが、予測困難なこれからの時代を生き抜く子供たちには、これに加え「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成していくという新たな視点が必要になります。

本研究では、学校全体で育成を目指す「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を設定する際に、学校の教育目標と、国立教育政策研究所が示した「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」及び「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）」を踏まえながら設定していくことが有意義であることを確かめることができました。また、このことは、学習活動を評価・改善していく際の評価の視点としても活用することができました。

さらに、教員が一単位時間の授業において、各教科等の目標を達成することを目指しながら、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成していくことを意図した学習活動を実践することで、他の教科等との関連を考えたり、子供が主体的に学び、他者と議論や協働したりして理解の質の向上を図る、深い学びの姿を見据えた授業改善に取り組むことができるようになりました。

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を明確に設定するための要素

＜要素１＞

学校の教育目標、子供や学校、地域の実態を踏まえた取組等

＜要素２＞

持続可能な社会づくりの構成概念（例）

人を取り巻く環境に関する概念	人の意思・行動に関する概念
Ⅰ　多様性	Ⅳ　公平性
Ⅱ　相互性	Ⅴ　連携性
Ⅲ　有限性	Ⅵ　責任性

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）

① 批判的に考える力
② 未来像を予測して計画を立てる力
③ 多面的、総合的に考える力
④ コミュニケーションを行う力
⑤ 他者と協力する態度
⑥ つながりを尊重する態度
⑦ 進んで参加する態度

国立教育政策研究所
「学校における持続可能な開発のための教育(ESD)に関する研究(最終報告書)」平成 24 年3月 より

2　「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するためにカリキュラム・マネジメントの充実を図ること。

これまでの研究実践においては、教科等横断的な視点で単元（題材）の内容との関連を明らかにする学習計画を作成する学校が多く見られました。

本研究では、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための学習活動を、教科等横断的な視点で学年ごとに一覧として作成し、全ての教科等において、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための主な学習活動を可視化できるようにしました。

このことで学校は、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を、教科等の枠を超え、組織的かつ計画的に子供の発達の段階を踏まえて育成していくことができるようになりました。

また、単元（題材）の指導計画は、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成に資するものであったかどうかを「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」を基にしたアンケートや子供の学習状況等から、評価しました。そしてこの評価を、次の単元（題材）や他の教科等の学習活動を見直したり、人的又は物的資源の有効な活用の仕方を考えたり、学習活動の目的や実施時期等を改善したりするための根拠としたことで、全ての教科等の学習活動を年間のまとまりを見通しながら継続・発展した学習活動とすることができました。

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための取組

教育活動の質の向上を図るカリキュラム･マネジメントの充実

◆「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための主な学習活動の一覧の作成

	4月	5月	6月	7月
国語				
社会				

◆　単元（題材）の指導計画を評価・改善
◆　人的又は物的資源の有効活用について検討

3　持続可能な社会の実現に向けた視点を踏まえた授業改善の充実を図ること。

これまでも問題（課題）解決的な学習の過程を重視し、協働的な学習等を取り入れながら、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善に取り組んできました。

本研究では、習得・活用・探究という学習の過程を通して、子供が学習した内容を、友達と協働して課題を解決したり、身近な課題や地球規模の課題などを SDGs との関わりから考えたりする学習活動の充実を図りました。

このことで子供は、地球規模の課題などを身近な自分のこととして捉え、自らの意思を決定し、行動を変革していきたいという深い学びの姿が見られるようになりました。

また、これらの取組から子供は、自分たちの身近には一人では解決できない課題が多くあることに気付き、自他を認め合い、他者と協働的に学ぶことの必要性を実感したり、主体的・協働的に学ぶ力を高めたりすることができました。

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための取組

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の充実

◆　学習の過程や子供の学びの姿を明確にした、単元（題材）の指導計画の作成
◆　三つのつながり、「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」、関連する SDGs を活用した学習活動の設定

本研究では多摩地区四校の校内研究の実践を通して、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成していくために、教科等横断的な視点で学習活動を見直し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の充実に組織的に取り組みました。これにより教師は、自身が行う日々の授業の繰り返しが、まさに学校全体で育成を目指す「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育むことにつながり、そのために必要な学習活動の在り方を考えるようになりました。さらに、教育課程全体を通して教員が相互に連携しながら、学習活動の充実に取り組むことで、学校経営に参画する意識が高まっていきました。

今後、多摩地区の小・中学校をはじめとする多くの学校において、本研究の成果が活用され、子供たちに「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」が育まれる学校教育が創造されることを願っています。

持続可能な社会を目指す学校教育の在り方

東京大学大学院教育学研究科 准教授　北村 友人

「持続可能な開発のための教育（ESD）」とは、古くて新しい教育のアプローチである。社会にある問題を自ら発見し、なぜそうした問題が起こっているかを理解し、そこにどのような働きかけをすることで解決を導けるのかを、子供たち自身が主体的に考える教授・学習のプロセスを、ESD では非常に重視している。こうした学習を実際に行うためには、座学で教科書を通した学びをしているだけでは不十分であり、自ら積極的に調べたり、他の子供たち（さらには大人も含めて）と議論したり、そこで分かったことを様々な形で表現していく、という参加・体験型の学びを取り入れていくことが欠かせない。そのような学びのスタイルは、日本の学校でも様々な形で実践されてきたという意味では「古く」からある教育実践であると言える。しかしながら、そうした教育実践を行うにあたり、「持続可能な社会」の在り方を考え、それを妨げるような社会的課題に対して目を向けることを促すというアプローチは「新しい」ものである。

そうした教育を通して、どのような資質や能力を育むことが求められているのであろうか。それは、2020 年度から順次導入されていく新しい学習指導要領で示されている資質・能力と、多くの共通性をもっていることを指摘したい。新学習指導要領では、「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」という資質・能力に関する 3 つの柱を打ち出している。そして、これらの資質・能力を育むうえで、「主体的・対話的で深い学び」を実現していくことが不可欠であると強調している。このような資質・能力が、まさに ESD を通して育むことが目指されており、そのための学びの在り方（＝主体的・対話的で深い学び）こそが、ESD で実践されるべき学びでもある。

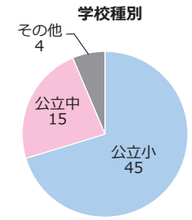
ESD にしても、新学習指導要領にしても、その根底には、これからの時代には体系化された知識やスキルを子供たちに伝達し、それらを身に付けさせるだけでは十分とは言えないという考え方がある。すなわち、急速に変化する時代の中では、学校で身に付けた知識やスキルはすぐに古くなってしまうため、人生を通して学び続け、知識やスキルを自分でアップデートし続ける能力を身に付けることが不可欠となる。それは、「学び方」を学ぶ、と言い換えることもできるだろう。

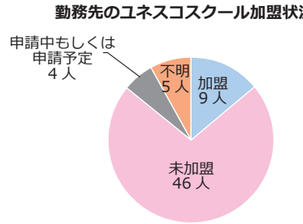
加えて、世の中には必ずしも一つの正解があるのではなく、複数の解が存在していたり、場合によっては「正解」など誰にも分からないといった状況もあり得る。そうしたときに、自らが「正しい」という判断をどのように下していくことができるのか。これからの学びには、そういった判断をできるような資質・能力を育むことが求められている。そのためには、社会における倫理や正義、道徳などの価値観について理解を深め、そうした価値観に基づきながら社会的により「公正」であると考えられる判断を下していく態度や姿勢が必要になってくる。繰り返しになるが、そうした判断を下す際に、必ずしも一つの「正解」があるわけではないことは、言うまでもない。

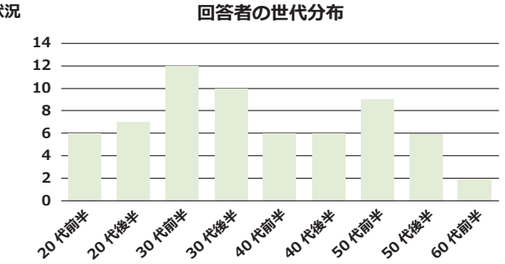
このように考えてくると、ESD を実践するというのは、とても大変なことに思えるかもしれない。しかし、最初に述べたように、ESD は古くて新しい教育のアプローチである。実は、学校教育の中で、これまでにもこういった資質や能力を育むための取組が積み重ねられてきたはずである。ただし、そうした教育実践を積み重ねる中で、ESD には「持続可能性」という一本の大きな軸があることを強調したい。この世界が持続可能なものであるには、環境、経済、社会・文化という 3 つの領域を横断的に繋げながら考えていくことが必要であり、そこに上述の「公正」という価値観を柱としてもっていくことが求められている。そのようなことを意識して教育実践に取り組むという意味では、やはり「新しい」教育のアプローチと言えるのであろう。

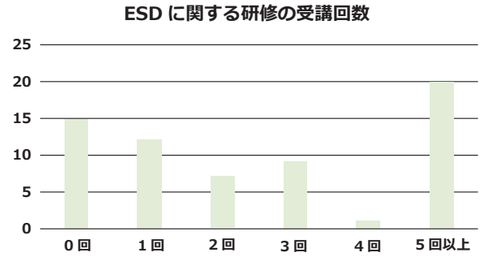
ESD を推進することは、多くの先生方にとって、そして、多くの学校にとって、大きな挑戦かもしれない。しかし、先が見通せず、急速に変化していくこれからの時代を子供たちが生き抜いていき、それぞれの能力を十分に発揮していくことを可能にするような資質・能力を育むためには、とても重要な取組であると考える。同じようなビジョンをもった新学習指導要領も導入されていく中で、ESD の意義を認め、その推進を図っていくことに、多くの人々が積極的に取り組んでいくことを期待したい。

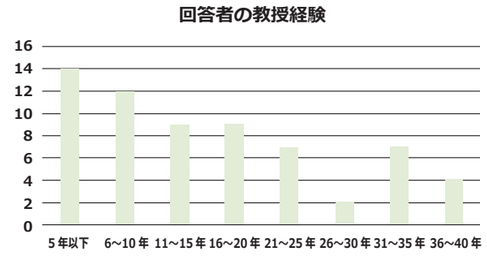
持続可能な開発のための教育（ESD）の実践に関する教員アンケート結果（仮）











	β	0 から 1 までの範囲に指標化	ln(p/1-p)=βの時の p	オッズ比
1[全体]価値観の変容を学校全体で実現し、学校を変えていく行動を実践	-0.0877	0.108358818	0.478089042	0.916036
2[資源]資源の有限性を認識し、持続可能な消費行動	0.0164	0.214475025	0.504099908	1.016535
3[知識]各教科の基礎的・基本的な知識・技能の習得	0.000396	0.19816106	0.500099	1.000396
4[思考]批判的に思考し、ものごとを思慮深く判断する能力	0.128	0.328236493	0.531956381	1.136553
5[予測]未来像を予測して計画を立て、予期せぬ事態にも適切に対応できる力	-0.194	0	0.451651542	0.823658
6[コミュ]コミュニケーション能力	-0.0912	0.10479103	0.47721579	0.912835
7[協働]他者と協力する態度	0.787***	1	0.68718681	2.196796
8[つながり]多様な人・もの・こと・社会・自然と自分とのつながりを総合的に考え尊重し受け入れる態度（システム思考）	0.292*	0.495412844	0.572485695	1.339103
9[参加]学校や社会等の意思決定過程に自分から進んで計画・参加・行動する態度	-0.152	0.042813456	0.462072994	0.858988
10[模範]社会的正義や公正性を重んじ、道徳的行動を促す態度	0.0256	0.223853211	0.50639965	1.02593
11[認識]地域や社会における自らの役割を認識し、自分の行動を振り返り目標に向けてモチベーションを高く持つ能力	0.148	0.348623853	0.53693261	1.159513

（***は1%、**は5%、*は10%有意水準で有意を示す）

持続可能な開発目標（SDGs）

◆SDGs が目指すもの：
無限であり、唯一である。

◆SDGs は完璧ではない。
→　例：「文化」の目標

◆各国、各コミュニティ、各個人の SDGs を考えることが重要である。

＜参考＞学習活動を評価するアンケート（例）

「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を育成するための学習活動の評価に用いたアンケートです。

◆　次の質問に対して当てはまる番号に○を付けてください。

		大変そう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
A	人を取り巻く環境に関すること				
	Ⅰ　多様性（いろいろある）				
	1　課題を解決するには、いろいろな方法があると思う。	4	3	2	1
	2　考えを伝えるには、いろいろな方法があると思う。	4	3	2	1
	3　自分の住む地域には、いろいろな問題や出来事が起きていると思う。	4	3	2	1
	Ⅱ　相互性（関わり合っている）				
	1　学んだことを関わり合わせて考えをまとめることは大切だと思う。	4	3	2	1
	2　よりよい考えにまとめるためには、互いの意見を関わり合わせることが大切だと思う。	4	3	2	1
	3　自分が住む地域は、他の地域や外国などと関わり合っていると思う。	4	3	2	1
	Ⅲ　有限性（限りがある）				
	1　自分に限りある時間は、計画的に使うことが大切だと思う。	4	3	2	1
	2　学級がもてる力を発揮することは大切だと思う。	4	3	2	1
	3　自分が住む地域では、自然を活用していると思う。	4	3	2	1
B	人の意思・行動に関すること	大変そう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
	Ⅳ　公平性（一人一人大切に）				
	1　一人一人の意見を大切にして話し合いに参加していると思う。	4	3	2	1
	2　学級では、一人一人のよさを見付けて行動していると思う。	4	3	2	1
	3　一人一人の気持ちを理解し、行動できる集団になるために行動していると思う。	4	3	2	1
	Ⅴ　連携性（力を合わせて）				
	1　他の人と力を合わせて課題を解決していると思う。	4	3	2	1
	2　行事では、学級の友達と力を合わせて取り組むことができていると思う。	4	3	2	1
	3　自分の住む地域をよりよくするために、力を合わせていると思う。	4	3	2	1
	Ⅵ　責任性（責任をもって）				
	1　物事を最後まで責任をもってやり遂げていると思う。	4	3	2	1
	2　学級の仕事分担に根気強く取り組むことができていると思う。	4	3	2	1
	3　自分が住む地域をよりよくするために、責任のある行動をしていると思う。	4	3	2	1

参考にした資料一覧

1　小学校・中学校学習指導要領
（文部科学省　平成 29 年３月）

2　小学校・中学校学習指導要領解説　総則及び各教科編
（文部科学省　平成 29 年７月）

3　ESD（持続可能な開発のための教育）推進の手引き
（文部科学省国際統括官付　日本ユネスコ国内委員会　平成 30 年５月改訂）

4　学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕
（国立教育政策研究所　教育課程研究センター　平成 24 年３月）

5　ESD の学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み
（国立教育政策研究所　教育課程研究センター）

6　私たちがつくる持続可能な世界～SDGs をナビにして～
（外務省　公益財団法人　日本ユニセフ協会　令和元年９月改訂）

7　こども環境白書
（環境省　平成 31 年１月）

8　持続可能な社会づくりに向けた教育推進校実践事例
（東京都教育庁指導部指導企画課　平成 30 年３月）

9　持続可能な社会づくりに向けた教育推進資料 No.1～No. 7
（東京都教育庁指導部指導企画課　平成 30 年６月～）

10　持続可能な社会づくりに向けた教育推進校取組事例
（東京都教育庁指導部指導企画課　平成 31 年３月）

11　SDGs 時代の教育　すべての人に質の高い学びの機会を
（北村　友人　　佐藤　間久　　佐藤　　学　　学文社　　平成 31 年４月）

委 員 名 簿

委 員 長　古屋　真宏（国分寺市教育委員会 教育長）

副委員長　三浦　利信（国立市教育委員会 教育指導支援課長）

特別委員　北村　友人（東京大学大学院教育学研究科学校教育　高度化専攻　准教授）

委　　員

〈立川市立第六小学校〉

部 会 長	校　　長	小林　邦子
副部会長	副 校 長	日向　義裕
代表部員	主幹教諭	櫻井　由香
代表部員	主任教諭	溝越　勇太
	主幹教諭	根岸　　厚
	主任教諭	伊藤　淳一
	主任教諭	奥秋　　剛
	主任教諭	河合ちとせ
	主任教諭	杉田　直也
	主任教諭	須藤　正紹
	教　　諭	遠藤　　圭
	教　　諭	加藤　知美
	教　　諭	金谷　行恵
	教　　諭	瀬戸口泰博
	教　　諭	西條　歩美
	教　　諭	水永　優生
	養護教諭	吉原　真帆
	臨時的任用教員	朝日　知哉
	臨時的任用教員	山本　理美
	専 門 員	小池　　孝

〈国分寺市立第六小学校〉

部 会 長	校　　長	畑　　和男
副部会長	副 校 長	大島　清和
代表部員	主任教諭	竹本　昌弘
代表部員	主任教諭	高草木智之
代表部員	教　　諭	小谷　　卓
	主幹教諭	滝口　道子
	主幹教諭	竹嶋　弘貴
	主任教諭	阿部　光江
	主任教諭	関口　朝貴
	主任教諭	紺野　郁子
	主任教諭	寺島さおり
	教　　諭	赤津　　優
	教　　諭	大谷　風子
	教　　諭	井出麻結美
	教　　諭	今橋　浩紀
	教　　諭	尾上　健人
	教　　諭	金垣　　洋
	教　　諭	菊地かさね
	教　　諭	小林　有希
	教　　諭	竹内　達哉
	教　　諭	永嶺　仁志
	教　　諭	並木　勝啓
	教　　諭	長谷　美貴
	教　　諭	渕上　知美
	養護教諭	古川　彩乃
	非常勤教員	伊藤　陽子
	専 門 員	古宮キヨ子

〈国立市立国立第三小学校〉

部 会 長	校　　長	日野　正宏
副部会長	副 校 長	佐々木克典
代表部員	教　　諭	髙井　淳史
代表部員	教　　諭	山本　伸雄
	主幹教諭	河合　智史
	主幹教諭	池田　頼太
	主任教諭	石井　三保
	主任教諭	木村　　恵
	主任教諭	高柳　敦子
	主任教諭	坪松　章人
	主任教諭	中嶋　太郎
	主任教諭	村井　　真
	主任養護教諭	北條　友加
	教　　諭	星島　涼子
	教　　諭	滑川百合奈
	教　　諭	並木　早苗
	教　　諭	谷口　正明
	教　　諭	安藤万有実
	教　　諭	熊澤　　優
	教　　諭	黒田　直子
	教　　諭	岡村　侑紀
	教　　諭	山口　真一
	教　　諭	遠藤　　香
	教　　諭	盛合　玲那
	教　　諭	谷　　勇伸
	専 門 員	矢島裕紀子

〈多摩市立青陵中学校〉

部 会 長	校　　長	千葉　正法
副部会長	副 校 長	矢野　尚子
代表部員	主幹教諭	児山　友美
代表部員	主任教諭	武田　貴裕
	主幹教諭	篠塚　浩幸
	主幹教諭	土方美和子
	主任教諭	小林　　郁
	主任教諭	片山　　崇
	主任教諭	松永　正治
	主任教諭	峯尾　真奈
	主任教諭	宮崎貴久恵
	主任教諭	湯澤　悠祐
	主任教諭	亀井　徳雄
	主任教諭	岡田　祥子
	主任教諭	古井　　孝
	主任養護教諭	近藤めぐみ
	教　　諭	白取　良子
	教　　諭	米津　伸明
	教　　諭	島　　恵子
	教　　諭	白土　美幸
	教　　諭	角田　拓人
	教　　諭	髙橋　裕太
	教　　諭	小田島京平
	教　　諭	杉村　豪俊
	非常勤教員	佐伯　綾子
	臨時的任用教員	安井　　奨
	臨時的任用教員	佐藤　謙悟

事務局　　東京都多摩教育事務所

所　　長	松尾　正純	指導主事	阿部　　梢	教員専門員	土屋　信行
指導課長	榎並　隆博	指導主事	芳井　伸彦	教育専門員	松本　信之
統括指導主事	大久保順子	指導主事（併任）	山ノ口寿幸	学校教育指導専門員	冨田　　広
指導主事	田中　　暁	指導主事（併任）	安部　　峰	学校教育指導専門員	渡部　公威
指導主事	齋藤　将之	教育専門員	菊池　春海		

東京都多摩地区教育推進委員会
第 25 次計画（通算第 46 年次）報告書

令和２年２月
編集・発行　東京都多摩教育事務所指導課
〒190-0022　東京都立川市錦町４－６－３
ＴＥＬ　042-524-7222　ＦＡＸ　042-528-0985
印　刷　株式会社シンソークリエイト

登録番号　31（4）

【表紙について】
　表紙の流れる光と球は、急速な社会の変化の中で、一人一人の子供が持続可能な社会の創り手として、自分のよさや可能性を発揮していくイメージを表しています。

【報告書について】
　この報告書は、東京都多摩教育事務所のホームページに掲載していますので、御活用ください。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。